

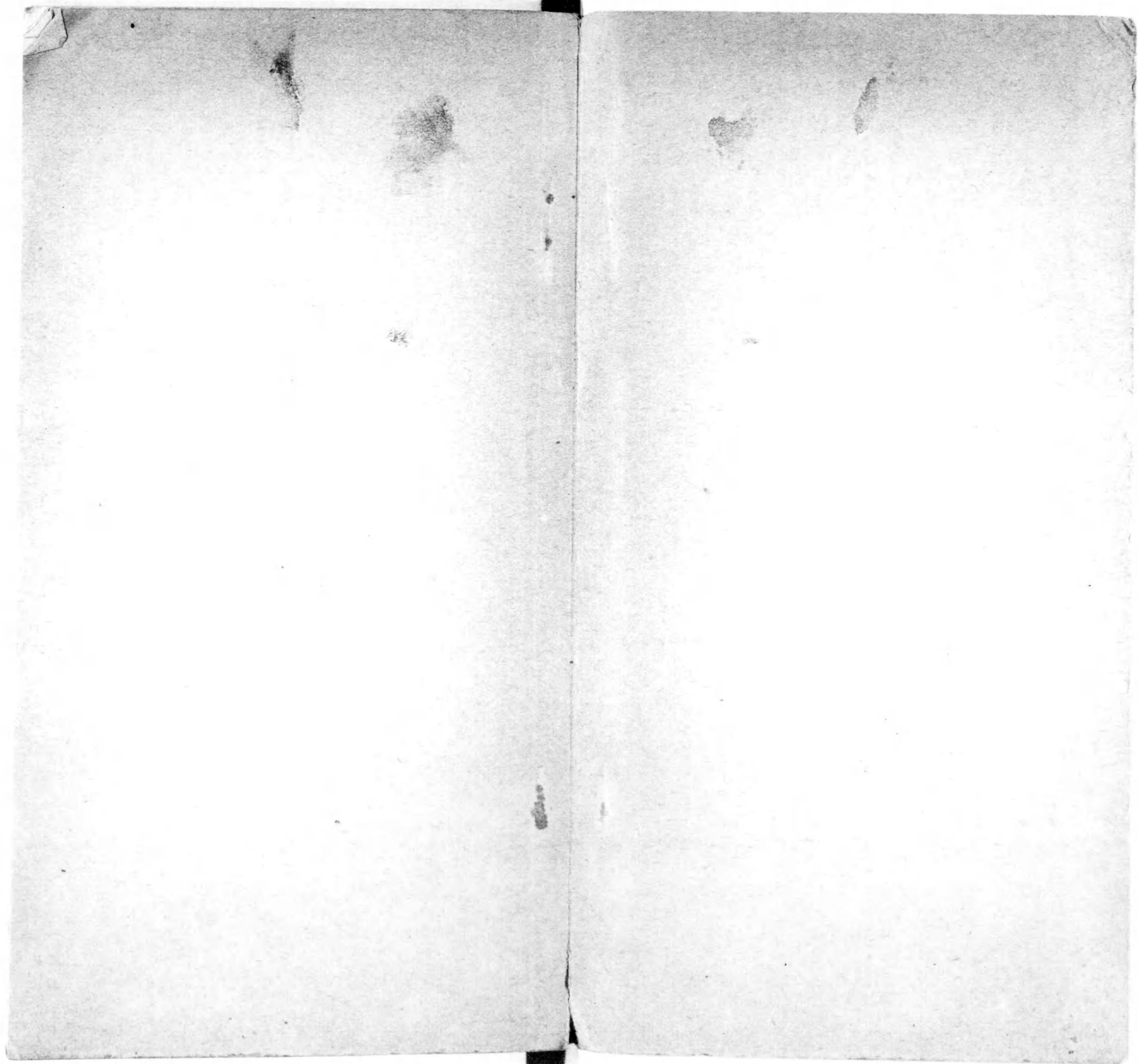
特102

185



始





特102
185



活殺人の心を知る法
自在

大正
8. 5. 17
内交

自
人
の
心
の
研
究
の
必
要

目次

第一節 緒言

第一項	總說	一
第二項	商人と心の研究の必要	三
第三項	事業家と心の研究の必要	四
第四項	結婚と心の研究の必要	五
第五項	雇主と心の研究の必要	六
第六項	交際と心の研究の必要	六

目次

第二節 社交より観たる人

- 第一項 總説……………八
- 第二項 克く饒告る人……………九
- 第三項 無口の人……………一〇
- 第四項 理窟好きの人……………一二
- 第五項 恥かしがる人……………一二
- 第六項 無愛想の人……………一三
- 第七項 度胸のある人……………一三
- 第八項 愛嬌のある人……………一四

第二節 職業より観たる人

- 第九項 活潑な人……………一五
- 第十項 不活潑な人……………一六
- 第十一项 初戀の早い人……………一七
- 第一項 總説……………一八
- 第二項 教員……………一九
- 第三項 商人……………二〇
- 第四項 軍人……………二一
- 第五項 官吏……………二二

第六項 會社員……………二二

第七項 學者……………二五

第八項 農夫……………二六

第九項 職工職人……………二七

第十項 俳優……………三〇

第十一項 力士……………三一

第十二項 髮床……………三一

第十三項 下僕……………三一

第十四項 辯護士……………三三

第十五項 醫師……………三四

第十六項 學生……………三六

第十七項 政治家……………三七

第十八項 僧侶……………三八

第四節 目的より觀たる人……………三九

第一項 總說……………三九

第二項 法學を志望する人……………四〇

第三項 文學を志望する人……………四一

第四項 醫師を志望する人……………四三

第五項 軍人を志望する人……………四四

第六項 技術家を志望する人……………四五

第五節 嗜好より観たる人……………四六

第一項 總説……………四六

第二項 酒好きの人……………四七

第三項 女好きの人……………四八

第四項 芝居好きの人……………四九

第五項 流行好きの人……………五〇

第六項 餅好きの人……………五一

第七項 角力好きの人……………五二

第六節 個人の特徴より観たる人……………五五

第八項 物好きの人……………五二

第九項 甘好きの人……………五三

第十項 畜獸の好きな人……………五四

第一項 總説……………五五

第二項 大きな目の人……………五六

第三項 小さな目の人……………五七

第四項 細い目の人……………五八

第五項 目尻の下つた人……………五八

目尻の上つた人……………四八

第七項 奥目の人と出目の人……………六〇

第八項 目の鋭い人……………六一

第九項 眉尻の下つた人……………六二

第十項 毛の赤い人黒い人……………六三

第十一項 毛のちやれた人……………六四

第十二項 毛の薄い人……………六五

第十三項 はえぎわの高い人……………六六

第十四項 太つた人とやせた人……………六六

第十五項 骨太の人と骨細の人……………六七

第十六項 頬骨の高い人……………六八

第十七項 肉の堅い人とやわらかい人……………六九

第十八項 大きな人と小さな人……………七〇

第十九項 頭の大きな人小さな人……………七一

第二十項 歯の出た人……………七二

第二十一項 鼻の大きな人と小さな人……………七二

第二十二項 口の大きな人と小さな人……………七三

第二十三項 色の青白い人……………七四

第二十四項 肌の荒い人と細かな人……………七五

第二十五項 にきびのある人……………七六

第七節

言語動作より観たる人

.....七七

第一項 總説.....七七

第二項 大聲の人と小聲の人.....七八

第三項 早口の人と口の重い人.....七九

第四項 聲の鋭い人.....八〇

第五項 詞の優しい人.....八〇

第六項 歩方の亂暴な人と丁寧な人.....八一

第七項 歩き方に癖のある人.....八二

第八項 體度で心を知る法.....八三

第八節

境遇より観たる人

.....八四

第一項 總説.....八四

第二項 親なしの人.....八五

第三項 棄子の人.....八六

第四項 私生子の人.....八七

第五項 獨身の人.....八八

第六項 繼子の人.....九〇

第九節

家庭より観たる人

.....九〇

第一項	總説	九一
第二項	嚴しい家庭の子女	九二
第三項	亂れた家庭の子女	九三
第四項	富める家庭の子女	九四
第五項	貧しい家庭の子女	九六
第六項	父獨身の子女	九七
第七項	未亡人の子女	九八
第十節	年齢より觀たる人	九九
第一項	總説	九九

第二項	幼年期	一〇〇
第三項	少年期	一〇一
第四項	成年期	一〇三
附録	人間の十二性質	一〇五
第一	子年生れの人	一〇五
第二	丑年生れの人	一〇七
第三	寅年生れの人	一〇八
第四	卯年生れの人	一一〇
第五	辰年生れの人	一一一

第六 巳年生れの人……………一三

第七 午年生れの人……………一四

第八 羊年生れの人……………一六

第九 申年生れの人……………一八

第十 酉年生れの人……………一九

第十一 戌年生れの人……………二〇

第十二 亥年生れの人……………二三

目次 (終)

人の心を知る法

白龍子 著

第一節 緒言

第一項 總説

凡そ此世に生存する動物は、必ず自家保存の理法に因つて悪しき境遇を避け、敵を防ぎ、自己の生命を完ふせんとしてゐるのである、則ち生物なるものは、自家保存の天性によつて、自己の身體に利あるときは之を取り、害あるときは之を捨つるのは本能が然らしむる處である。就中人類に至つては、

他の動物と異なり、精神作用著しく發達せるにより、自家保存の理も亦精神作用に依つて生ずる場合が最も多い、例へば自己の利を計る爲めには其意を明かにせず、又は懸引を爲すが如きは蓋し其類である、而して古代にあつては、人類の數未だ多からず、土地も亦廣かりしを以て各人其生命を維持するに困難を感ぜなかつたが、人類は次第に増加して、土地は狹隘を感じ、食物も漸く不足するやうになつては、各人皆自家保存の爲めに勤勞と工夫とを用ふる様になり、甚だしきに至つては自家保存の爲めに、他人を苦しめ、時には欺き、時には腕力に訴へても其目的を達し様とする輩が續出するに至つた。茲に於てか事業家商人は云ふに及ばず、社會共同生活の必要上各人皆人の心を知るの必要が生じてきたのであるが、人の心の研究は容易ならざる

ことであつて、而も未だ充分なる研究を了した者はない。故に著者は之が實際に活用し得らるゝ場合を、本書に於て以下數節に別つて研究せんとするものである。

第二項 商人と心の研究の必要

物質文明の今日にあつても、商人は須らく誠實な者でなければならぬのであるが、現代の商人は、相互に詐欺的行爲が伏在してゐて、懸引の上手な人で對手を欺罔する者でなければ成功が出来ないものゝ様に看做されてゐるのは、帝國の商業界の發展上誠に憂慮すべきことである。而も商人は不特定の人を對手取りて商取引を爲すのが原則である。此の場合に當つて、相手方が詐欺的の人間であるときは大なる損失をせなければならぬ結果が生ず

るのである、かゝる場合に豫め相手方の性質を知るときは、其損失を免れることが出来るのである。故に商人に取りて人の心の研究の必要なることは云ふまでもないことである。

第三項 事業家と心の研究の必要

事業家は多くの人を使用し、多くの人と取引をせなければならぬので、人の心を知るの必要は多く言を俟ない處である。即ち使用人の適不適は事業の盛衰に關係を及ぼす重大な問題である、故に人を採用せんとする場合に當つて、其人の性格を知るは最も必要なことである、次に事業家は一面識もない人と交際し取引を行ふ場合も亦尠なくない、この場合にも商人と同じく其相手方の性質を知るときは非常な利益があるのである、故に事業家が人の心を

知るの必要は商人以上と言はねばならぬ。

第四項 結婚と心の研究の必要

結婚は人倫の大道にして夫婦の約を結び、新に親屬關係を生ずるものである、内には家族親戚に對し、外には一般社會及國家に對し、新に義務を負担するのである、故に結婚の重大なることは今更謂ふまでもないことである、斯の如く結婚は重大なものであるから、之を爲さんとする者は、須く相手方の性格を知るの必要あることは言を俟たない處である、然るに結婚を爲す者必ずしも相識ある者に限らず、往々一面識もない人と結婚する場合が多い、かゝる場合に其相手方の性格を如何にして知ることが得るや、是れ則ち人の心の研究の必要なる以所である。

第五項 雇主と心の研究の必要

事業家商人等は謂ふに及ばず、一般中流以上の人は一人若くは數人の雇人を使用するのが常である、さうして其雇人の中には正直な誠實な者もあれば不正な不勤勉者もある。故に雇人の適不適は雇主にとつて非常なる利害關係を有するものであつて、事業家なれば其事業の盛衰に影響し、一般人にあつては財産の増殖に重大な關係を及ぼすことになる。

茲に於てか人を雇ふ場合には、其雇人の性質を知るの必要があるのであるさうして其雇人の性質を知るには心の研究が必要なのである。

第六項 交際と心の研究の必要

人若し衣食住に不足を感じないときには、他と交際するのが最大の快樂で

ある。然るに交際せんとする人の性質を知らないときは、先方の意志に反する談話を爲したり、又は疑惑を招く舉動を爲して、その人の感情を害する場合が多々ある、又自己の性質と反對の人と交際して衝突する場合も尠なくない、かくては折角に快樂を得んとして交際したに拘らず、却つて不愉快を生ずる原因となるのみである、故に快樂を求むる爲めの交際と雖も、相手方の性格を知るの必要あるはいふまでもない況んや相互に利益を交換せんとする場合には最も必要なことである、惟ふに交際は互に慾望を満足し、相互に利益の交換を爲さんとするものであるから、自己と大同小異の人でなければ交際するも無益である。

第二節 社交より観たる人

第一項 總 說

古代水草を逐ふて轉々する時代に於ては、他と交際し、互に利益を交換するの必要はなかつたが、現今のやうに社會全般が共同生活を爲し、互に利益を交換するに非ざれば生活し能はざるやうになつては、其交際の必要なことは多く言を俟たない所である、就中事業家商人等は其必要の最も甚だしいものであることは以上述べた通りである、故に之等の人は一面識もない人と交際して、互に利益を交換しようとする場合が多々あるのである、かゝる初對面の場合に當つて、先方の性格を豫め看破して、應對するに於ては、非常な

利益であることは謂ふでまもないことである、然るに其初對面の場合には、各人共懸引があつて容易に眞意を明かさないのである、故にこの場合に先方の性格を知るの最も困難なことであるが、其對話しつゝある間に現はれる先方の特徴に付て研究するときは、大體其性格を知ることが出来るのである、故に吾人は其交際上現れる特徴の種類に就て各人の性格を研究して見やうとするのである。

第二項 克く饒舌る人

吾人は相當の禮節を守つて他人と交際するのが最大の慾望であることは前已に述べたる所であるが、中にも他人と談話をするのが非常な快樂としてゐる人がある、かゝる人は主に自分勝手のおしやべりでなければ興味を惹起な

い、所謂自己本位のしやべり方である、この種の人は常識には長じてゐるが、軽卒で忍耐がない、さうして動もすると感情に支配されて理窟を謂ふ様なことがある、又他人の談話中に嘴を入れたがる者がある、かゝる人は前に述べた様な自己本位のしやべり方ではないが、矢張おしやべりをするのを最も愉快としてゐるのであるから、性質も前者と大同小異である、只だ情に最も支配され易い點は前者以上である又何れも情慾は強い方である。

第三項 無口の人

多く口を開かない人は、平素温和で一見すると一般に隠険らしいが、中には淡泊な質の者がある、そして淡泊な者は比較的善良で、野心がなくて、小事に冷淡で、忍耐が強い者が多い、言を換へて云へば熟慮の上でなければ激

しないが、激するに於ては充分に目的を貫徹しないと止まない人である、この點から見るときは或は強情かも知れん、要するにこの種の人は剛膽な質であつて忍耐が強い者が多い、之に反し無口で隠険な質の者は不活潑で、事に當つて速断することが出来ない人であつて執念深い質の者が多いのである。

第四項 理窟好きの人

總て人間は自家保存の理法に因り利己の爲めに辯解するのが普通である、言を換へて云へば、自己を守る爲めには他を排斥したり、又自己に不利を生ずる場合には何等かの理窟を附けて之に對應して行かんとするのが本則である。

然るに理由の如何を問はず無暗に理窟を比べる者がある、かゝる人は主に

自我が強くて、強情で、負けざらいである、さうして情に支配されない人であつて理窟家であるから他人との折合の附きにくい頑固な人である、故に別交は上手な方でないから商業には不向である。

第五項 耻かしがる人

人に恥かしがる人は度胸がなく女性的人であることは云ふまでもないことである、換言すれば熱し易い、冷め易い、情的の者が多い、さうして情慾に強い虚榮心の高い人である、殊に情的の人間であるから常識には通じ易いが、小心な質であるから社交は餘り上手な方ではない、然し交ると人情が厚いから人と衝突する様なことは尠ないが、忍耐には缺けてゐるので専門家には不向である、さうして情に支配され易くて物事に感染し易いので誘惑さ

れ易い傾きがあるから、この種の青少年は悪友を避けなければ墮落する質である。

第六項 無愛想の人

古代にあつては、男子たる者は猥りに喋舌ることを劣等の者のやうに思れてゐたが、現代のやうに社會全般が物質主義に支配せられ、且つ生存競争が激甚になつては、却つて悪口の者は現代遅れになつてしまつたのである、さうして無愛想の者は概して無口の者が多いので、前已に述べた處を参照すれば本項の説明は自ら不用であるから省略することにする。

第七項 度胸のある人

昔から男に度胸、女に愛嬌と謂ふて共に特有性の様に思はれてゐる、さう

して男に度胸の必要なことは謂ふまでもないが、其度胸のある者は男子として一般に適當な性質の者ばかりで、要するに剛膽な質であつて、落附があつて、小事に付て無頓着な者が多いことは争はれない、然し女子としては餘り感心の出来ない點があり、俗に云ふ新しい女と云ふのはこの種の者である、殊にこの種の人は忍耐があるので、激するに於ては充分目的を貫徹せなければ止まんと云ふ人であるから、事業家などには適當である、然し他と折合が附かないことが往々ある、夫れは情に支配されない強情な質であるからである。

第八項 愛嬌のある人

愛嬌は女性的のものであるから男に愛嬌の必要はない様だが、現代の様に

社會が物質主義に傾いた時代にあつては、事業家商人等は云ふに及ず、雇人でも愛嬌のある者が成功する様になつて來た、さうしてこの種の人は野心家であるから虚榮心が高い、又社交的人であつて常識に通じ易いので商人などには適當であるが、輕卒で忍耐に缺けてゐて、情に支配され易くて、情慾に強くて、而も多情の傾きがある、然し中には度胸があつて、活潑で、愛嬌のある人がある、かゝる人は社交的才能があつて忍耐があるので總て成功し易い人である。

第九項 活潑な人

現代社會では男女の區別なく活潑な質の者が愛せられる様である、さうして男は活潑であつて而も剛膽な者が尊重されるのである、然るに活潑な者の

中にも剛膽な者と然らざる者がある、其剛膽な者は事に當つて克く堪へ、又激するに於ては充分に目的を達しなれば止まん人であるから、事業家政治家としては適當である、之に反し活潑な人で而も熱し易い、冷め易い者は情に支配され易くて、忍耐がなくて、虚榮心の高い女性的の者が多い、又常識には秀で易い社交的の人間である。

第十項 不活潑の人

不活潑の人は常に隠險を帯びてゐる、然し不活潑な人必ずしも隠險でないさうして其隠險でない人は常に温和であつて、善良な者が多いが、隠險を帯びてゐる人は物に激することが尠なくて、事に當つて執念深いが忍耐はあるさうして我が強いので、自己が信じたことは飽までも實行せねば止まんと云

ふ強情な人である、其上判断が遅くて人の説を容易に容れないけれども案外に迷心家の者が多い。

第十一项 初戀の早い人

初戀の早い遅いは之を一般的に云ふことは出来ない、例へば季候の程度に因つても、又地方の習慣に因つても、或は又家庭の事情に因つても非常な影響を受けるものであるが、要するに之を一般的に見て、早い者と、遅く發達する者は確かにある、其早く發達する者は概して多血性の者が多い、故に熱し易い、醒め易い、情的の最も肉慾に強い者に多い、さうして常識に通じ易い質で社交は上手である、然しその種の者は物に感染し易いから、人に誘惑されたり、欺され易いから注意する必要がある。

第二節 職業より観たる人

第一項 總 說

社會の進歩するに伴ひ、精神上及物質上非常な發達をなした現代にあつては、吾人の仕事はすべて分業となりつゝあるのである、例へば一の仕事を爲すにも甲の職人が加工の一部を爲し、乙の職人が其一部を爲し、丙の職人が之を仕上げ、丁の卸商人に之を賣却し、丁の商人が戊の小賣商人に卸し、戊の小賣商人が初めて社會の需要に應せしむるのである、斯の如くにして分業は成立するのである、さうして其分業の半面が職業であるが、茲に云ふ職業は以上の如き詳密な分類の職業でない、即ち其從事する職業に因つて

其人の性格(素質)に變動を生ずるだけのものに就て説明を試みるのである、要するに職業は第二の天性を殖へつけるだけの力のあるものであるから、其職業に因つて大體其人の性質を知ることが出来るのである、是れ即ち職業に因つて生ずる習慣や、周圍の事情が、其素質を變化せしめたものである。

第二項 教 員

教育の目的は國民をして德育及知育を授けしめ、其幸福を増進せしむるのである、さうして德育は正不正の觀念を明にし、徳義を理解せしむるのであつて、知育は總ての事物に關する理由を會得させ、完全な生活資料を得るに適當な能力を享有せしむるのである、故に其局にあたる教育者にとりて德育の發達と、其實踐とは必要缺くべからざることであるは云ふ迄もない、故

に教員は人格を重んじ、品性を慎まなければならん、殊に兒童の如き物事に
 感染し易き者を教育するに於ては、特にこの點が重要である、斯の如く教員
 は品行方正を重んぜなければならぬので、常に其觀念が腦中を去らない、夫
 れが習慣性となつて營利的觀念殊に暴利を貪らんとするが如きは毛頭ないの
 が教育者の本分である、さうして理想は物質的慾望よりは精神上の慾望、即
 ち名譽と云ふ方面に進んでゐる、然るに現代の物質主義の半面に横る生活
 難の爲めに、かゝる慾望は自然に遠ざかりつゝあるは誠に止を得ない事實で
 あるから、先づ生活上の安定を得せしむることは刻下の問題である。

第三項 商人

商人は營利を目的として物品の販賣や中介を爲すのを營業としてゐるので

常に營利と云ふ觀念は去らない、言を換へて云へば利得と云ふことが第一の
 問題である、故に商人には商人根性と云ふ懸引の上手な者でなければ大
 した成功が出来ない、況んや現今の様に生存競争が激しくなつて來ては昔の
 様に正直一天張では成功が遅いので、往々惡辣なことをする商人がある、要
 するに現代の商人連は物質主義に支配されてゐて名譽的の慾望の如きは毛頭
 ない、従つて人情は薄くて利得の爲めには奴隸となるも辭せない所謂奸商人
 が多いのである、斯ては帝國商業界の發展上誠に憂べき現象である。

第四項 軍人

軍人界に於て物質主義が流布するときは規律を紊し、兵を弱くする原因と
 なるのである、故に軍人は徹頭徹尾精神上の快樂を以て満足せなければなら

ぬのである、殊に規律は軍人の生命とも云ふべきものであるから、何れの國に於ても此事は堅く守られてある、就中我國の如きは其點は最も美を濟してゐる、斯の如く軍人は規律的生活を爲し、精神上的の快樂を以て満足し、而も常に活潑な生活を爲してゐるので、従つて各人の性質も習慣性に冒されて、活潑な規律的人となつてゐる、然るに今や物質主義の半面に横たはる快樂主義が、社會の全般を支配する様になつて來たので、名譽ある軍人と雖も、漸次其氣風が遠かりつゝあるは國家の爲め誠に慨嘆に堪へない次第である。要するに軍人は世事に暗い、淡泊な、規律の正しい、活潑な人でなければならぬ。

第五項 官吏

官吏は國家の事務を行ふ特別の權利義務に服する人である、思ふに古代にあつては、官吏と云へば他の臣民に比して特別の地位を占め、階級を異にしてゐたが、現代では官吏と雖も他の臣民と等しく同一の階級に服してゐるのである、然るに従前は前陳の如く特別の階級を占め、大なる權利を有してゐたので、其習慣が今日に至つても去らなくて、往々官吏風を吹かせる人があつて、要するに官吏は國家の統治機關として、事務を分擔する人であるから、其半面には名譽が伏在してゐる、故に官吏を志望する人は物質上の慾望よりも、精神上に生きんとする人が多い、尠なくとも階級的制度を要求することは確かである。

第六項 會社員

現代の社會で會社員を志望する人が多くなつたのは物質主義の半面を現したる實證である、即ち會社員を志望する者の理想は、將來實業家にならうとする野心家であるが、事實は之に反し一生涯を腰辨で送る人が大部分である故に會社員も矢張腰辨根性に支配されて、自己の月給が昂上するのが最大の快樂の様になつて、獨立して事業を爲し、商業を營うとする勇氣が缺けて遂に腰辨で一生涯を送る者が多數である、要するに腰辨を永續してくると保守的になることは争れない事實である、然し物質的の慾望は之によつて消滅する者ではないから腰辨の中から獨立して事業を爲し或は商業を營んで大成功をする人がある、之即ち會社員を永續した者は常に營利的觀念に支配されて懸引も上手になり社會の狀態に通じてゐるので成功し易いのである、

故に會社員となつた者は將來獨立して事業を爲すの覺悟と決心がなければ遂に腰辨根性に支配されて一生涯を保守的に腰辨で世を送る様になる。

第七項 學者

學者は學問の蘊奥を究め之を社會に發表し他の學理を發見せんとする人である、故に學者は物慾を遠け精神上の快樂を以て満足せなければ學者として其の學理を究めることが出来ないものである、さうして現代の様に社會の總てが複雑になつては到底總てに通ずることは不可能である、従つて一の學者は一のことに對して徹頭徹尾研究して學理を發現するのが本分であるから自然に社會の事情や常識のことは遠かるのである、殊に學者の中でも學問の種類によつて非常に保守的になり又我が強くなる場合がある、要するに學者は

學理の發見を以て何よりの名譽であつて夫れが慾望満足の唯一であるから物質慾の如きは慾望の限りではない、故に自我が強くなり保守的になり無常識になるのも無理からぬことである而も斯の如くなるのが學者の當然である

第八項 農 夫

農家では一般に自己が作つた農作物や味噌醬油で生活して行くのであるから都會の者や通勤員の様に總てを他人から之を求めて生活するのでないから天真爛漫に世を送ることが出来る、従つて都會の人の様に生活難だの生存競争だのと云ふことは比較的尠ない又刺戟もないので野心を起す人も尠ない所謂安心立命と云ふ様な方面に進んでくる、然し労働は激しいが其労働に堪へるだけの體格と忍耐は養成されてゐる、又精神的の苦痛が尠ないだけ壯健で

勇氣が充ちてゐるので長命する、さうして人情に厚くて正直なのが通常であるが都會の者が田舎へ入り込んで惡辣なことをするので段々と惡化されつゝあるは誠に憂慮すべきことである。

第九項 職工職人

我國では物質文明の今日でも職人職工の地位を認ないのみならず動もすると之等を卑下するの傾きがあるのは我工業界の發展上憂慮すべきことである、何となれば一の鐵片を一圓の價とすゝも百圓の價にするも一に職人職工の力に據らなければならぬのである、即ち其鐵片を火箸にするときは僅かに一圓の價しかなくて之に加工して鋏となすときは十圓の價となり更に緻密な加工を爲し時計の機械となすときは百圓の價となる、斯の如く其生産力

は職人職工の技術如何に因つて数十倍數百倍の價となるのであるから職人職工を卑下する理由は更にないのみならず其地位を認めて昂上發達の途を計らなければならぬ、然るに我國では職人職工の地位を認めないのみならず之を卑下するのも習慣が然らしむるのであるが職人職工其人が自己の地位を自己自ら認めないからである、往々世上で見るに自分は職工であるから無作法でも亂暴でも社會に恥づる處はないなどと云ふて猥りに無作法なことを爲し又亂暴なことをする人がある之は甚だ過つた考へである、今日に於ては職人でも職工でも軍人でも官吏でも皆同一の權利義務に服する國民である、職人だから職工だから軍人や官吏と階級が異なつてゐるのではない國民皆同一である、故に自分で自分を卑下したり自分の職業を劣等のもの、様

に考へることはない寧ろ自己の地位を認めて自己の職工の職業の高尙なることを説くのが當然である、要するに我國では古來武家政治の遺物として軍人や官吏が非常に高尙な者の様に思はれて職人や商人が劣等の者の様に思惟されてきたので夫れが習慣となつて今日の様に物質文明の時代になつても矢張其觀念が去らないのである、又職人職工其人が信じないからである、勿論其中でも無教育の爲め、斯の如き舉動を爲す人もあれば或は素質が亂暴な爲め斯の如くになつた者もあれど要するに習慣が亂暴に仕立たのである、然し之等の人は非常に過激な勞働に服してゐるだけ身體は壯健であつて精神を勞しないので勇氣があり忍耐があるが快樂主義に支配されてゐるので墮落する者も尠なくない。

第十項 俳 優

現代社會の趨勢は物質主義より快樂主義に進んできたので近時著しく劇だの活動寫真だのと云ふ方面が人氣附たので俳優も昔と異なつて其地位を認められた結果藝術だの技術だのと云ふて名家の子女が其團に投ずる様になつた然し其内面に立入て見ると矢張昔の習慣が打破されなくて醜い行爲や墮落が充滿してゐる、さうして其俳優を志望する人も眞に藝術の妙味を感じて加入するのではない結局快樂主義に支配された結果入團する者が多いのである、よし初めは藝術を究めんとして加入したとするも周囲の事情が事情だから遂に墮落してしまふらしい、要するに之の中間に加入して墮落を初めた者は非常に快樂主義に支配されてゐるので多情に養成され忍耐が乏しくなつてゐる

ので容易に正業には附けないのが普通である。

第十一項 力 士

力士に神經過敏な者は絶對にないと云ふものは體質が然らしむるのみならず力士中間に於てそんな氣風は少しもない其上に天真爛漫な生活を爲し世の中のことは何事にかゝはらず無頓着の方である、又事に當つて熟慮の上でなければ斷行せぬと云ふ極めて落附のある人ばかりで性質は一般に善良である又至つて活潑な質で淡泊なのが特有である、さうして金錢には比較的冷淡であるが兎角快樂主義に支配されてゐて、特に衣類を飾つたり體裁を重じたりする様なことはないが快樂の爲めには何物をも惜まなく散する傾きがある、要するに力士は淡泊であつて天真爛漫な者が多い。

第十二項 髪 床

昔から髪床屋と云へば先づ暢氣な職業の様に思れてゐる、夫れは職業其ものが暢氣なのではなく種々雑多の人が入り込んで暢氣なことを云ふてゐるか夫が習慣となつて職人も之に感染して暢氣なことや、面白いことを云ふ様になる、従つて物質主義に支配されてゐるので常に快樂を求めんに吸々としてゐる、さうして人々に多く接してゐるだけ交際も上手だ又物質慾が發達してゐるが其半面に快樂主義が普及してゐるので大した成功が出來にくい、然し此種の人で非常に成功する者がある、かゝる人は意思が堅固で忍耐が強いからである。

第十三項 下 僕

下僕と云へば先づ身分の低い職業である、さうして下僕で一生涯を送る人は無神經の者が多くて何事に付ても無頓着な人好しの者が多い、言を換へて云へば野心がなくて淡泊な質で天真爛漫な者が多い様だ、さうして之等の人は欲望も普通人に比較すると低い即ち欲望と云へば小金でも蓄めて一生涯を安樂に送れば夫れで欲望は充されるのである、目下の慾望としては美味物を飲食して面白い物を見るのが最大の快樂である。

第十四項 辯護士

辯護士は昔代言と云ふて餘り社會から認められなかつたが現代では有樞の地位を占め社會からも大に認められて國家樞要の人となつたのである、言を換へて云へば現代社會が復雜となつて法律關係が錯綜して専門家の手でなけ

れば其法律保護を完全に受けることが出来なくなつたので自然其地位を認められる様になつたのである、又社會上より云ふも國民に完全な法律保護を與へるは文明國の當然爲すべきことである、さうして其保護を完全に與へんとするには専門家たる辯護士によらなければならぬ故に國家としても充分に其地位を認める様になつたのである、斯の如く辯護士は社會の中流以上の地位を有して法律適用の完全ならんことを希ふものである。故に精神上物質上の欲望は共に遠大で野心家が多い、又職業が職業であるから社交は上手で口が軽くて理解力に富むるから政治家若くは事業家などには適當である。

第十五項 醫師

吾人の病氣てふ災をを防ぐ方法には二の方面がある、其一は病氣てふ災害

を未發に防ぐ方法であつて例へば衛生を重じて病氣の襲來を防ぐのである其二は病者をして醫藥の力で回復せしむる方法である、さうして前者は各自が注意するに因つて其目的を達することが出来るのであるが後者は専門家なる醫師の力に俟たなければ到底其目的を達することが出来ないのである。斯の如く吾人が生命を全ふする場合に當つて醫師は甚だ必要なものであつて、而も社會に益する處尠少でないのである、然るに現代にあつては物質主義に支配されて背任行爲を爲す人があるのは誠に迷惑とする處である、要するに醫師は一面學者であり他面に於ては實踐家でなければならぬ即ち一方學理の發見に努力し他方では之を適當に各場合に適用せなければならぬ職務を有してゐる、又醫師は常に多くの人に接してゐるので社交は上手である、さうして

學者としては比較的物質的の慾望が發達してゐるのである。

第十六項 學生

凡そ學生は學理を究め生新の氣を養ひ將來學者政治家軍人官吏實業家てふ國家樞要の人物たらんとする青年である、故に此時代に於ては専ら精神上の快樂を以て満足せなければならん若し彼にして物質主義及快樂主義に捕れるときは學生の自分に反し遂に目的を破壊するの不幸に至るべし、然るに近時學生の慾望は現代の快樂に満足し力を學理の研究に求めず精神上の慾望に遠かり猥りに衣服を飾り體裁を重じ肉を慕ひ女と相識あるを名譽の如く誤解し盛んに物慾を恣にしてゐるのは誠に遺憾とする處である、要するに學生たる者は將來國家樞要の人物たるべき青年であるから野心もあり虛榮心も高く

なければならん、さうして目下の快樂を遠けるだけの勇氣あり而も志す處に努力し之に伴ふ忍耐と誠意とがなければならん、故に學生時代に於ては世事に暗く常識に通じないのが本則である。

第十七項 政治家

政治家と云へば文字の示す如く國家の政治に參與する名譽ある職責を有する人である、故に其職責の爲めには何物をも犠牲にするの覺悟と之に伴ふ努力が必要である、言を換へて云へば國家の爲めには私慾を棄て國民の爲めには公明正大に盡さなければならぬ然るに現代の政治家にはかゝる正義の行動を爲す代議士は殆どないのである、かくては我立憲國の爲め憂慮すべきことである、要するに政治家てふ人は物慾を犠牲にして精神上の慾望即ち名

譽を以て満足すべきものである、故に政治家は其の國家の爲めに盡すの決心あり而して其名譽を欲する人で物慾に支配されない淡泊な質の人でなければならん、又かゝる人が政治家に多いのである。

第十八項 僧侶

世の中に僧侶程暢氣な者は先づ尠なからうと思れる何となれば生存競争が激くなつて各人が生活難を稱へても僧侶は平氣なものだ檀家から仕送りを受けて天真爛漫な生活をなし世を送つてゐるのが普通である、即ち僧侶は佛法を説いて精神上の氣を休め物質に遠かる様にしてゐるので自然天真爛漫になる、換言すれば社會の事情に暗くて無常識な天真爛漫な比較的野心を起さない者が多いのである、然るに今や物質文明の反映として僧侶と雖も昔の様に

暢氣な天真爛漫的な生活を持続してゐる者ばかりはなくなる、さうして僧侶は、比較的暢氣な生活をして佛法を説いてゐるだけ正理の者が多いことは事實である。

第四節 目的より觀たる人

第一項 總説

吾人の慾望は千差萬別であるが大體に於て先づ食を求め次に衣を欲しさうして住家を要求するのである、然るに之等の慾望は單に本能の命する慾望であつて他の動物も等しく有してゐる、故に人類は他に理性の命する慾望を有してゐるのである、即ち吾人は團體的生活を爲し國家の分子たる國民となつ

て種々なる行動を爲し他と交際するのが最大の慾望としてゐる、茲に於てか吾人は社會に貢献せんとして目的を定め其目的に向つて行動し努力するのである俗に理想と稱するのは之の目的の半面である、翻つて現代社會を見るに文化の發達に伴ひ益々社會は繁雜となり總てのことは分業に出づるに非らざれば到底完全を期することが出来ないで各人は其志望する處に向進しつゝあるのである、言を換へて云へば吾人は吾人の特徴に向つて目的を定め其目的を達せんとするのである、故に其志望する所に因つて各人の性格が大體判明されるのである仍て以下順を追つて其目的の種類を擧げ其志望する人の性格を研究して見よう。

第二項 法律を志望する人

法律は社會の秩序善良の風俗を保持する爲めに設けられた國家の掟である言を換へて謂へば君人が共同生活を爲すに必要な行爲の規則を定めたものである、故に國民は男女の區別なく其觀念が必要であるが就中人の上立ちて事を爲す者官吏の如き人は其必要の最も甚だしいものである、従つて法律を研究せんとする人は概して理想家で虚榮心の高い人が多い様である、さうして自我が強くて社交的の者が多い、要するに法律を志望する人は一般に口が軽く淡白であつて而も情に支配されない様だ、殊に物質的慾望の秀でた人は法律家として適當でない何となれば理想が大きいのに法律の裏を切抜けることが上達し易いので往々非社會的行爲を爲す者があるからである。

第三項 文學を志望する人

文學を學ばんとするは恰も白雪が一面に降り積つて銀世界をなしてゐる原野を往行する様なもので行く目的地は確かに定つてゐるが行くには道はなしウカウカ行けば往々難所にかゝり非常な苦心するのみならず危険に遭遇して進退谷まることがある、斯の如く難所や危険を冒して進行せんければならぬので此の學問をする人は小膽であつて且つ大膽でなければならぬ、此のことは文學を志望する青年が豫め注意してをかねばならぬ點である、さうして文學は法律學の様に流行な學問でなくて保守的な方であるから従つて此の學問に従事してゐる人は一般に保守的になつてくる又自然に落附も出來てくる、殊に此學問は物質慾の長じた者には出來難い點がある、さうして神經が鋭敏になつてこないと其の文章は書けないと見へて神經家の人が多い様だ。

第四項 醫師を志望する人

醫師は人の生命を預つて之が保持を全ふする重大な責任のある職業であるから希くは患者に對して誠心誠意を以て盡して貰ひたいのである、言を換へて云へば醫師が誠意を以て盡すと盡さざるとは獨り患者の不幸のみならず社會に影況する重大な問題である、然るに現代社會の醫師の心理状態を解して見ると社會の爲めに貢献しようなどとしてゐる人は先づ絶無であらうと思はれる、必ずや其半面には榮利的觀念の爲めに總てが犠牲になつてしまう様である、局言すれば榮利的觀念に支配されて仕事がウルサクても汚ない仕事でも我慢して將來資産家にならうとしてゐるのが普通である、況んや現時の様にも物質主義が社會の全般を支配する様になつては尙更のことである、尙醫

師と云ふ職業は高尚な様だが餘り綺麗な仕事ばかりでないのと度胸を要する
場合が往々あるので甚だしい多血性の者には不向である。

第五項 軍人を志望する人

軍人は國家の干城であつて國家を保持する重大の任務を帯びてゐる名譽の
人である、故に純理より謂ふときは物質慾の如きは毛頭ないのが本則である
が現代の様に物質主義が映盛になつては軍人と雖もさう一概に論斷すること
は出来ない、然しながら軍人は名譽を以て最大の慾望としてゐるので尠なく
とも之を志望する青年にあつては其名譽を欲する爲めに志願するのである、
さうして其志望する青年は比較的物慾に淡泊で活潑な者が多い様だ、就中膽
汁性の者は軍人に適してゐるのみならず又志望する者も此種の男が多いこと

は事實が示してゐる、要するに軍人を志望する青年は物質慾よりは精神上の
慾望が長してゐて活潑な質の者が多いことは、争れない事實である。

第六項 技術家を志望する人

工業の進歩發達は國家の隆盛に影響する重大な問題である、さうして社會
の進歩に伴ひ段々と緻密な技能の作用でなければ到底現代社會の需要に應ず
ることが出来ないで技術家も巧妙な手腕を以て之に應じなければならぬ、
従つて之を志望する人も自己が此職業に忍ぶるだけの覺悟がなければ無益で
ある。然し果して之を志望する青年は此覺悟があるかどうかは甚だ疑問であ
るが尠なくとも高等な技術家を志望する者は一般に此覺悟があるのが普通で
ある、故に此點から觀るときは此等の人は大體に於て數理的觀念に長してゐ

て器用である、尠くとも技術に付て興味を以てゐることは疑れない、故に性質も温和な方で落附があつて情に支配されない世事に無頓着な忍耐のある者が多い、而も如斯人が適當である。

第五節 嗜好より觀たる人

第一項 總 說

人の慾望は千差萬別であつて各人皆其望む處を異にしてゐることは上段説明した通りである、併し大別すると精神上の慾望と肉體上の慾望とであるさうして其肉體上の慾望の中でも種類があるが其中で嗜好と云ふ慾望に就て研究して見るのである、即ち吾人は其嗜好に因つて各人の性質の大體を知ること

とが出来るのである例へば酒好きの人には多血性の者が尠なくて甘好きの者に此の種の性質の者が多いと謂ふ様に容易に其性格を知ることが出来るのである、要するに嗜好は如何なる人と雖も一若くは數種を有してゐる殊に數種有してゐる人は其中でも最も好むものが標準になるのである、以下項を別つて嗜好の種類を擧げて研究して見よう。

第二項 酒好きの人

酒は身體に生理的變化を惹起し精神を著しく刺激するのが一般である、言を換へて謂へば飲酒の結果は人により快不快の情を惹起せしめるのであるさうして其酒を好く者は平素概して情に支配されない落附のある温和な男性的の人である、殊に多く酒を欲する人は外部から刺激し易い多血性の者には

絶對にない、要するに酒好きの者は平素忍耐があつて事をするには充分に熟慮の上でなければ斷行しないが一旦斷行した時は飽まで貫徹せんければ止まんと云ふ人である故に平素は物に冷淡な方であつて剛膽である、此の種の人 は事業家には適當であるが細い商業には不向である。

第三項 女好きの人

性交慾は一般生物の本能であつて而も自然であるが、人類にあつては他の生物と異なり全然自然に放任することは出来ない、例へば社會政策上若くは社交上之を取締る必要があるのである、然るに女好きの男は其社會政策上又は社交上に反しても醜い行爲を爲す者がある、かゝる者の心理状態を研究して見るに習慣にも支配されてゐるが概して素質が然らしむるのである、

彼の出齒龜と稱する者の犯罪行爲は素質を遺憾なく表現したものである、要するに之の種の男は熱し易い冷め易い多情の人である、故に一人の女では満足し得られない所謂色慾狂者である、殊に男子で多血性の者は一般に女好きであることは争れない事實である。

第四項 芝居好きの人

芝居は感情を刺戟して喜怒哀樂を催せしめ悲哀又は快感の情を惹起せしむるので愉快を感じるのである、故に情に支配され易い人は一般に芝居好きであるから結局熱し易い冷め易い忍耐のない者が多い、さうして常識には通じ易いが情慾に強くて我が強いから往々墮落したり我が儘な人間になる者がある、其墮落する原因は熱し易い質だから他人に誘拐されるので墮落するので

ある、況んや小説や芝居の様な空想論を見て感情を刺戟するに於ては尙更隨落し易いのである。

第五項 流行好きの人

衣食住は人の本能であるが之れとても程度を過ぎると一の嗜好となるのである、就中衣類の如きは社會の進歩に伴つて進化するものであるから之に對する慾望も變化して行くのである、従つて流行好きの者は其變化に伴つて何所までも流行な物を欲するのである、かゝる人は好奇心が強く自我が強い氣の早い活潑な者が多い、さうして忍耐は乏しいが實行が速い所謂江戸奴式の間である故に人から頼まれると之を拒むことは出来ないで容易に承諾するが夫を何處までも實行する勇氣がない、又一般に情慾には強い方で多情

の傾きがある。

第六項 餅好きの人

酒好きの反對は餅好きである故に其性格も反對の者が多い、即ち酒好きの人は情的の人が少ないが餅好きの人は常に外部より刺戟を受けて情に支配され易い者が多い、何となれば酒好きの者は平素外部より刺戟されることか少ないので酒を飲んで内部から其刺戟を求めてゐる、斯の如く酒好きの者は内部から刺戟を求めてゐるが餅好きの者は外部よりの刺戟が多いので常に情に支配され易いのである、故に情に支配され易い情慾に強い人は一般に餅類が好きなき様だ、さうして此の種の人は概して小膽な方であつて喜怒哀樂を面々其儘現すのが普通である又之等の人は虚榮心が強くて我が儘になり易い質で

ある。

第七項 角力好きの人

角力は力量及技術によつて勝敗を決するので快感を生ずるのである、其勝負が観覧者をして非常に快感の情を催する者と然らざる者がある、即ち其勝負が快感の極點にある者は角力を以て最上の嗜好としてゐる、さうして其勝負を好む人の性質は概して剛膽な質であつて我が強くて負けざらうで而も淡泊な者が多い、又感情的の人で角力が好きな者がある、かゝる人は自我が最も強くて自己主義の人である。

第八項 物好きの人

常識に秀た人は判断心に長じてゐるのと技術が巧妙なので總てのことが好

きになるのである吾人は之を稱して物好きの人と云ふ、かゝる物好きの人は忍耐が乏しくて物に感染し易いので専門家には不向であるが常識に長じてゐて而も世事に通じてゐるので社交は上手であるが輕卒であるから落附がないさうして口が軽い者が多くて空想家である、故に常識に長じてゐる程夫れだけ成功する人がない、又此の種の人は事業家と爲るよりは商業を営むのが適當である、要するに此の種の人は情に支配され易い人であるから従つて情慾には強い方である、又一般に善良な質であるが他に感染し易いので誘惑され易いから大に注意する必要がある。

第九項 甘好きの人

餅好きの者は概して甘黨の者が多くて性格も又大同小異な者が多い、故に

餅好きの者の様に外部の刺戟が強い所謂情に支配され易い質であつて女性的の者が多いのである、故にことに當つて熱し易い冷め易い軽卒な小心な者が多い従つて虚榮心も高くて我が儘になり易い感情的の人間である又情慾には比較的強い方であつて多情の傾きがある。

第十項 畜獸の好きな人

畜獸の中にも色々な種類があつて猛しいものもあれば溫和なものもある、故に之等を一般的に論ずることは出来ないが要するに猛しい獸を好く人は剛膽な質であつて情に支配されない世事に無頓着な淡泊な者が多い之に反して溫和な畜獸を好く人は感情的の人であつて情に支配され易い神經の鋭敏な者に多い、然し之も習慣に支配されて好きになる人があるから一概には論断す

ることが出来ないが要するに猛しいものを好く人は其性格も剛膽であることは争れない事實である。

第六節 個人の特長より觀たる人

第一項 總 說

人の心は千差萬別であつて一樣に論ずることが出来ない、即ち萬人が萬人共顔面を異にしてゐると同じく心も又同一でない、斯の如く人の心は百人百色であるが心理學者は之を四種に大別してゐる、さうして此區別の標準は各人の性格を根據としてゐる、然し吾人の求めんとする處は其區別を明にするのが必要ではない、其根本の性格を知るのが最も必要なので其性格を知る

以上は其區別が奈邊にあるを問はないのである、之最も識者の研究に苦心する處であつて今尙之を實際に應用してゐる學者はない、故に著者は聊か研究する處があつて各個人の外部に現れたる特徴に付き其性格を看破するのである、以下項を別つて之が實際に看破し得らるゝ場合に付説明して見よう。

第二項 大きな目の人

目は人の心を知ると云ふが誠に然りである、即ち喜怒哀樂を其儘に現し又場合によると目色若くは目の動き具合で其欲する所が判断のである、然しかゝることは一定不變のことでないから其場合に因て審査せなければ到底之を知ることが出来ない、故に之等は人の性格を知るの標準として説明すること出来ないが目の大小は確定不動の者で而も其性質を異にしてゐるので之に

付説明して見るに大きな目の人は概して活潑で而も淡泊な質であつて自我が強く強情な者が多い、さうして短氣な者が多いが社交は概して上手である殊に女子にして目の大きな者は一般に情慾に強くて虚榮心の高い者が多い。

第三項 小さな目の人

目の小さな者は一見すると優しい性質の様であるが一概には斷定することは出来ない、往々此種の人で不活潑で而も隠險な者がある、かゝる人は小心であつて執念深く嫉妬心が強い人である、之に反し優しくて隠險を帯びない者は温和な質で正直な人が多い、就中女で目の小さな者は比較的正直な淡泊な野心のない無邪氣な者が最も多い、さうして目の小さな人で克く饒舌る者は熱し易い情的の人間が多くて忍耐に缺けてゐる。

第四項 細い目の人

目の細い者の中でも活潑な質の者と不活潑の質の者とは性質が同一でない故に先づ活潑な者に就て云へば概して性質は善良な方であるが動もすると忍耐に缺けてゐるので熱すると意外の方面に進んで遂に墮落する人がある、さうして情慾には一般に強い方であつて情的の人が多い、之に反し細目の人で不活潑な者は執念深い強情な負けざらいの迷心家が多い、故に自分が信じたことは飽まで實行せんければ止まんと云ふ人である、女のヒステリーと云ふのは之の種の人である、然し忍耐には強いが兎角すると我が儘な頑固な情に支配されない所謂馴し難い人である。

第五項 目尻の下つた人

目尻の下つた人は俗に多情だと云ふが事實は果して之に適中してゐるかどうか吾人は單に修辭上の詞ではないかと思ふ、何となれば目尻の下つた者必ずしも多情でない否な之に反する者が多いのである、さうして其修辭上の詞であること云ふのは吾人が情慾を催した場合には生理上目尻の下つた形を爲すのが原則である之の意味に於て俗人は目尻の下つた者は多情であると云ふたのではないか要するに此の種の人一般に温和な質で忠順な正直な人が多いが中には活潑な情慾に強い情に支配され易い者もあるが大體に於て淡泊な天真爛漫な野心のない人が多い様だ。

第六項 目尻の上つた人

目尻の上つた者は一見すると鋭い隠険な想を有してゐる様だが之とても一

概に論断することは出来ない、要するに短氣であつて柔和な天真爛漫的な人は尠ない必ず亂暴な質であるか然らずんば輕卒な落着のない者である、さうして強情な感傷的な情的人が多い女であればオテンバ的の者が多い、又虚榮心は高くて野心を有する者が最も多い様だ、然し此の種の人には比較的忍耐に缺けてゐるので大したことは出来にくいが社交的才能は確かにある、殊に此の種の者で活潑な人は情慾にも強い方で而も多情の傾がある。

第七項 奥目の人と出目の人

奥目の人は概して剛膽な質であつて落着がある、故に熟慮の上でなければ事を爲さないが勝氣であるから動もすると強情な點がある、然し忍耐は比較的強い方であるから事業などを爲すのは適當である、尙此の種の人で隠陰を

帯びてゐる者は執念深い感覺の遅い人であるが忍耐心は最も強い人である、要するに奥目の人で活潑な人は剛膽で淡泊な者が多いが病的例へば神經衰弱の爲めに奥目になつた者は此の限りでない、次に目の出た人は一般に輕卒な質で短氣な活潑な人である、さうして忍耐心に缺けてゐる者が多くて情に支配され易い人である、就中女の如きは強情で負けざらいなおてんばになり易い感傷的の者が多い、又情的人の者が多いので多情の傾きがある。

第八項 目の鋭い人

目は人の心を知る最も適當な處であるから口を要せずして目色で戀の仲介をしたり又目色で承諾の意を現はしたり色々な合圖の標準になる場合があるさうして目は吾人の喜怒哀樂を現はす處であるから其目が鋭い人は心の働

きも鋭敏で精神に餘祐がない人であることが判明される、故に一般に感情の人であつて自我が強い野心のある我が儘な者である、併し目の鋭い人でも習慣性によつて鋭くなつた者又は病的の者は此の限りでない、要するに目が非常に鋭い人は精神作用が鋭敏で常識的の者が多いことは事實である。

第九項 眉尻の下つた人

眉は目と同じく感情を觀破する處であつて喜怒哀樂を現す處である、故に人の性質を其眉の構造に因つて看破することが出来るのである、就中眉尻の下つた者は俗に多情であると云ふが夫れは事實であるかどうかは疑問であるが併かし性質は概して温和であつて人と衝突する様なことは尠ないが中にはだらしがなくて意思が薄弱な者がある、殊に女子の如きは往々欺まされ易い

質であるから注意せなければならぬ、即ち嚴格な夫に従へば良妻であるが然らざればだらしのない女と云はれる人である、詞を換へて云へば夫の命に因つては適當なことが出来るが自發的に大した仕事は出来ない女である。

第十項 毛の赤い人黒い人

赤い髪の毛の人は老ひて禿げ頭となり黒い髪の毛の人は白髪となるのは普通である、さうして昔から禿げ頭の人は多情であると云ふてゐる、故に赤い毛の者は結局情慾が強いと云ふことになるのである、又生理學から云つても右の事實は過らない、即ち毛の赤い女は多血性の者が多くて比較的小心で情に支配され易い稍々活潑な者である、次に毛の黒い人は活潑な人と不活潑な人とに區別して説明することが必要である、即ち活潑な人は自我の強い負

けがらない者が多いが不活潑の人は物事に刺激が尠ないが一旦熱したときは飽まで目的を達しなければ已まないと云ふ人である従つて剛膽な忍耐心の最も強い人である。

第十一項 毛のちぢれた人

髪かみの毛けのちぢれた人ひとは一般はんに貧血性ひんけつしょうせいの人が多おほいので隠險いんけんであつて嫉妬心しつとしんが強つよくて執念深しつねんがいのが常つねである、さうして概がいして小膽せうたんな方ほうであつて物事ものごとに刺激しげきされることことが尠すくないが一旦たんし刺激げきされると何處どこまでも執念深しつねんがく斷行だんかうせなければ止まんと云ふ強情かうじやうな感傷かんしやう的てきの人ひとである、併しかし此この種しゆの人ひとは一般はんに平素へいそは温和をんわな方ほうであつて忍耐心にんたいしんが強つよい迷信家めいしんかであるから正直しやうぢきなことは正直しやうぢきであるが中なかには非常ひじやうに感情かんじやうが強つよくて自己本位じこほんゐの人ひとがある、かゝる人ひとはヒステリーてき的てきの者ものが多おほい、斯かくの如ごとき者ものが物質慾ぶつしつよくに長ちやうしてくと惡辣あくらつなことをする場合ばあひが往々わうわうある

第十二項 毛の薄い人

毛けが細ほそくて薄うすい人ひとは多血性たけつしやうせいの者ものが多おほいので克よくく喋舌しゃべるのみならず口くちが輕かるいから祕密ひみつを守まもつたり忍耐にんたいすることが出來できない者ものが多おほい、又概またがいして情慾じやうよくには強つよい方ほうで物事ものごとにあき易やすい虛榮心きよえいしんが強つよい人ひとである、併しかし頭あたまは比較ひかく的てき常識じやうしき的に發達はつたつし易やすいので一寸ちよつとの社交しやかうは上手じやうずであるが、何分なにぶん口くちが輕かるいので大たいしたことは出來できにくい、さうして一般はんに小膽せうたんな方ほうであるから正直しやうぢきであるが數理すうり的てきの觀念くわんねんに乏とほしいのと物好きものずきであるから兎角とかく財政ざいせいは豊ゆたかになりにくい、尙輕卒なほけいそつな質たちであるから過あやまちか多おほいので注意ちういする必要ひつやうがある尙又人なほまたひとに欺だまされ易やすい傾かたむきがあるので慎つしまねばなるまい。

第十三項 はえぎはの高い人

はえぎはが高い者は男女の區別なく一般に頭が明晰であると云ふがそう一概に云ふことは出来ない、然しはえぎは高くしておでこが廣い人は頭腦が明晰であるか又は技術的才能がある者が多い、尠なくとも常識に發達し易い質であることは争れない事實である、さうして此の種の人には概して喋舌が好きでお世辭が上手であるから客商賣をするには適當である、併し變則的に進んだり又甚だしく物質慾が長じてくると強慾な人になる場合がある、尙ほ此の種の人には我が強いので負けざらひであつて情慾には強い方である。

第十四項 太つた人とやせた人

太つた人は比較的骨格が小さくて肉が多いが瘦せた者は反對に骨太であつ

て肉が尠ないのが常である、さうして太つた人は感情家でなくて温和でおちつきのある者が多いが中にはだらしない無頓着な人好しの者がある、かゝる人は常識的人でなくて何事をしても速い方ではない、即ち太つた人で骨格が大きい、活潑な者は膽汁性の者が多いので落着があつて思考が完全で判断心があつて虚榮心の高い人である、次に瘦せた者は感情的の人が多い、殊に女子にあつては神經家の者が最も多い、かゝる女は往々ヒステリーの女になる、併し感情が鋭いだけに常識的人が多いのは事實である。

第十五項 骨太の人と骨細の人

本項と前項との説明は略ぼ同一の結論になるのである云ひ換ふれば本項の説明は前項の半面解釋であつて見解を異にしてゐて其實質は同一のものである。

る、併し見解を異にしてゐるだけ幾分か其説く處を異にしてゐる、即ち骨太の者は常識に通じ易くして技術的才能が有る者が多い、さうして概して活潑な質で忍耐力に強い情慾に強いのが常である、次に骨細の人は概して情的の者が多くて情に支配され易いのが常である、さうして小膽であつて生地がなくてだらしない者が多いが元來控目主義であるから質素である。

第十六項 頬骨の高い人

頬骨が高いと云ふことは結局骨格が大きいと云ふことに歸着する様だが特に頬骨の高い者は非常にお饒舌が好きで他人と談話をするのが最大の快樂の様にしてゐる、故に社交は上手でありさうだが一概に断定することは出来ない、即ちくだらないことを饒舌するのは上手でも肝心のことになると餘り感

心の出来ない者がある、尙ほ口が軽いので秘密を守る様なことは出来ない、殊に女子にあつてはおてんばになり易い負けぎらいの我の強い者が多いのである、併し克くお饒舌をするだけ物事には通じ易い。

第十七項 肉の堅い人とやわらかい人

肉の堅い人は感情に強くて虚榮心が高くて理窟好きで我が儘になり易い質の者が多いが理窟好きであるだけ判断心に長じてゐる、さうして常識には通じ易いのが本則である、併し動もすると變則的に變り易いのが大なる缺點である、要するに此の種の女は口が軽くて快活で社交は上手な方である、次に肉のやわらかい女は概して溫和で落着のある者が多い様だが動もするとだらしない者がある、殊に女子にあつては妻として夫の命に因つて働く女で

あつて自發的に夫を助ける女ではない、併し中肉であつて色が白い者は多血性の者が多いからかゝる者は此の限りでない。

第十八項 大きな人と小さな人

身體の大きな人は比較的頭に餘裕があつて温和な者が多い、故に落着があつて物事を苦にしないのが常である、併し餘り大きな者の中には感じの遅い判断心におびひ、だらしない者がある、要するに此の種の人には忍耐があつて剛膽な處があるが感情的の人でないから情には支配されない、之に反し身體が小さい者は概して落着がない者が多いので動もすると悪い方面に傾き易い、さうして情慾に強くて虚榮心が高い方である、殊に女子にあつては小膽でありながら熱し易い質であるから無謀な考へを起して之を斷行する場合があるから注意せなければならぬ。

あるから注意せなければならぬ。

第十九項 頭の大きな人と小さな頭の人

人の頭は大脳小脳があつて吾人の精神作用を掌る所であるから大切なものであることは云ふまでもないことである、さうして其大脳の發達如何に因つて其人の知識の如何が判斷されるのである、故に生理學者は男女の區別なく大きな長い頭の者は一般に才能があるのである、之に反して小さな短かな頭の人は概して低能の者が多いことを證明してゐる、要するに大きくて長い頭のおでこの高い者は尠なくとも常識には長じ易いものであることは争れな事實である、之に反し短かい小さな頭の人には精神に餘裕がないと見えて一般に落着がない者が多い様だ、殊に大脳の發達の場所に因つて其人の特徴が

判別される位であるから其大脳を圍む大きいのは其發達の分量の度を現すものであるから矢張頭の大きい方が特徴があると云はなければならぬ。

第二十項 齒の出た人

多く生理學者は齒の出た原因を説明して幼者のときに上向に寢て口を開てしたので顎骨が開ひて自然に齒が出たのであると云つてゐるが夫れも一理あることである、併し吾人は全然之を信ずることは出來ない點がある、さうして吾人は之を人相學から説明して見やう、即ち此の種の人には概して口が軽くてお喋舌で輕卒で情に支配され易い忍耐心に缺けてゐる者が多い、而し情に支配され易い位であるから常識には通じ易い人であつて社交的の手腕はある

第二十一項 鼻の大きな人と小さな人

人相學者は鼻を以て財産を現はす處であると云つて鼻の大きな者は財産に縁があるなどと云つてゐるが果して夫れは事實であるかどうか餘りあてにはならぬ様だ、併し鼻の大きな者は概して淡泊で快活な者が多い様だが中には温和で不活潑な者もある、何れにするも隱險で執念深い者は尠ない様だ、殊に鼻の大きな者は度胸がある者が多い、就中女子にあつては鼻の大きな者は強膽な質の者が多いので往々新しい女の様な極端な者が出来る、之に反し鼻の小さな者は多血性の者が多いので一般に小心で執し易い醒め易い人である。

第二十二項 口の大きな人と小さな人

口の大小は人の度胸を現はす處であると云ふが果して適當な詞であるがど

うか、吾人は此の詞が事實に近い詞であることを信するのである、試みに口の小さな者を研究して見るに聲は小さくして克く恥かしかるのが常である、即ち恥かしかると云ふのは小心であることを現はすのであるから結局小膽である、と斷言することが出来るのである、之に反し口の大きな女は概して活潑であつてお喋舌であるから社交的の手腕はある、動もすると我が儘になり易い質の人である。

第二十三項 色の青白い人

色の青白い病的の様な人は極端な貧血性の者であるから一般に隠微な不活潑な者である、従つて此の種の人は嫉妬心が強くて執念深いのが此の種の者の性質である、詞を換へて云へば神経家であつて迷信の強い其上に我が強くなる。

て負けきらいであるから、自分の信じたことは飽までも斷行せなければ己まないと云ふ感傷的の人が多い、殊に女子にあつてはヒステリーの病的になり易い者が最も多い、故に嫉妬心の爲めに往々身を過まる場合は尠なくない、さうして我が儘になり易い質であるから注意せなければ遂には我が儘が増長してくるとヒステリーになる者がある。

第二十四項 肌の荒い人と細かな人

はだのこまかな人は概して多血性の者であるから情に支配され易い女性的の者が多い、云ひ換ふれば物事に激し易くして冷め易い情的人である、さうして物事に感染し易いので従つて習慣性にも侵かされ易い人であつて忍耐に缺けてゐる者が多い、之に反し肌の荒い人は剛膽であつて而かも溫和な者

が多い様だが其實はなかく野心家であつて落著てゐる人である、殊に女子にあつては剛膽な處があるので悪くなるとおてんばになる人である。

第二十五項 にきびのある人

にきびの出来る理由は皮脂線内に脂肪が集つて出来るのであるから別に其性質に變つた點がない様だが其にきびは脂肪の多い人に多く出来るのであるから此の點より考へて見ると幾分其性質に變つた處を見出すことが出来るさうして其脂肪の多い者は概して壯健な方であつて而かも剛膽な點があるから膽汁性の者が多い、故に概して淡白で活潑な質の者が多いが中には往々此種の者で不活潑な隠險な人がある、かゝる人は落著があつて而かも大膽な人であるが感情的の人でないから野心家でなくて快樂主義に支配され易い人である。

である。

第七節 言語動作より觀たる人

第一項 總 說

凡そ吾人の心は言語及動作によつて外界に現れるのである、然るに各人皆性質を異にするに因り其心を外部に表現する形式に於ても總て同一でない必ずや多少異なつた方法で現れるのである、故に此の點から各人の性質を研究するときは大體に於て其人の心を知ることが出来るのである、見よ女子と男子とは言語動作に於て著しく異なつてゐる之れ即ち男子と女子とは其性質に於て其異があるからである、茲に於てか吾人は之等の點より各場合を別つ

て研究して見よう。

第二項 大聲の人と小聲の人

人の内部的活動である心を知るは甚だ困難であることは云ふまでもない事實である、然るに其内部的活動を現す發言の方法より之を研究するときは其性格を知ることが出来るのである、故に其方法の一部である音聲の大小に就て研究して見るに大聲の者は概して剛膽な質であつて而も輕卒な傾きがあるさうして忍耐には比較的缺けてゐるが社交などは上手であつて情に支配され易い者が多い、然し性格が概して亂暴な方であるから或一方に偏すると情に支配されなくなる、之に反し小聲の者は不活潑な者が多いが中には至つて淡泊な質の者と隱險を帯びてゐる者がある其淡泊な質の者は男子として至極

適當な者がある即ち忍耐があつて面も落附がある、さうして情に支配されないが人情に厚い者が多いのである、次に小聲であつて而も隱險を帯びてゐる人は落著はあるが至つて執念深い方で事に當つて斷行することが容易に出来ない者が多いのである。

第三項 早口の人と口の重い人

俗に云ふ早口の人には心に落附がなくて輕卒な者が多い、故に事に當つて實行は速かであるが之に堪へるだけの忍耐に缺けてゐる、言を換へて云へば輕卒であつて誠意に缺けてゐるのである、之に反し口の重い人即ち口をきくに遅い人は心に落著があつて忍耐がある人であるが常に不活潑で事に當つて斷行することが遅延する傾がある、然し忍耐があるので目的は充分に達せな

ければ止まん人である、要するに之の種の人は粘液性の者が多いのである。

第四項 聲の鋭い人

聲の鋭いと否とは程度の問題であつて而も聲帯にも關係するが甚だしい鋭い聲の人は一般に神經家であつて我が強いことは争れない事實である、さうして之等の人は女子に最も多いのである夫れは即ち性質が然らしめるのである、要するに此種の人は執念深く迷心家が多い又我が強いので我が儘になり易い、さうして我が儘が増長してくるとヒステリーの感傷な人になるかゝる人は自己本位の人が多いので自己が信じたことは理が非でも通さなければ止まん頑固な人である故に他人との折合は極めて就きにくいのである。

第五項 詞の優しい人

詞が優しい人は概して性質も圓滿な人であるが中には猫かぶりと云ふて事實に反した人がある、かゝる人は俗に云ふズウズウしいズブトイ質の人である、従つて情に支配されなくて容易に激しないが激するに於ては何處までも貫徹せなければ止まんと云ふ執念深い人である、斯の如きは例外であつて、而も女に最も多いのである、要するに優しい詞の人は溫和で落着があつて而も忍耐がある人が多い、さうして人情に厚くて誠意の人であるから他人から尊敬される所謂君子と稱せられる人である。

第六項 歩き方の亂暴な人と丁寧な人

人の心は言語や舉動に因つて外部に現ることは上段説明した通りであるが其動作中でも特に歩き方の亂暴な者と然らざる者とは其性質に於て甚だしく

差異がある、即ち其歩き方の亂暴な人は性質も矢張亂暴で輕卒で落着がない者が多い、之に反して歩き方が丁寧で遅い者は心に落附があつて事に當つて克く堪へ激するに於ては充分に目的を達せなければ止まんと云ふ忍耐のある人が多い。

第七項 歩き方に癖のある人

癖のある歩き方をする人は心にも癖があるかといふにそんな理窟はないが要するに歩き方に就ては色々な癖のある歩き方をする人がある、例へば花柳界の女の様にキバツな歩き方をする者がある、彼等は其キバツな歩き方で客の心を引かんとしてゐるのであつて別に素質が然らしめたのではないが小足に歩く人の如きは習慣にも支配されるであらうが主に素質が然らしめるので

ある、かゝる人は小心であつて而も心に落着がない者が多い様だ要するに人の癖は主に習慣から生ずるのであるから深く論ずるだけの價值がないと思ふ

第八項 態度で心を知る法

態度で人の心を知ると云ふことは最も困難なことであるが要するは兒童の態度と大人の態度とは非常な差異がある、之即ち性質が異なるからである、さうして女子の如きは小女のとくと然らざるときとは生理上及び心理上非常な差異を生ずるのである、言を換へて云へば小女が男子に接すると態度に於て著しく異なつてくるのである、斯の如きは一般の見解であるが態度が其人の性格を現すことは争れない事實である、即ち落附のある態度を示す人は剛膽な質で忍耐のある人が多いが落着のない態度の人は一般に輕卒な忍耐

に缺けた人である。

第八節 境遇より観たる人

第一項 總 説

人は生れながらにして幸福な者もあれば不幸な者もある、さうして生れながらにして幸福な者は比較的境遇に因て素質に變動を生じないが生れながらにして不幸な者は家庭的生活を完全にしないのと種々な境遇に因て成長したので素質に變動を生じてゐる者が多い、例へば兩親共にある子供と兩親共にない子供とは其成長するに従ひ其素質に非常な差異を生ずる様になる、即ち家庭的生活が異なつてゐるのみならず總ての境遇が異なつてゐるのと養育の

方針が異なつてゐるので成長するに従ひ自然其性質が變つたのである、之則ち境遇若くは習慣が然らしめたのである。

第二項 親なしの人

親はなくとも子は育つとやら世の中には親なし子と云ふて兩親共にない者がある、かゝる者は幼年時代に於て兩親に死に別れた者や又は生き別れと云ふて父親や母親が判明ないので他人の手で養育されて成長した者である、此の種の人は成功する者が尠ない其原因は幼年時代から家庭的の暖い生活をしないで而も親の慈悲が之に加らない淋しい境遇の中に成長したのである、から自然墮落して終ふのである、かくの如く墮落して終つた者は其墮落の淵より容易に出ることが出来ないのが常である、要するに親なし子が墮落し易

いことは争れない事實である、彼の個人主義の發達してゐる西洋でさへ親なし子は墮落するのが本則の様に思れてゐる況んや我國の様に家庭制を以て特長としてゐる國に於ては尙更のことである、即ち家庭の慈悲のこもつた生活をしてゐない以上は墮落するのも無理からぬことである、然し此の種の人で非常な成功をする者があるかゝる人は意思が堅固で正理の人間である。

第三項 棄子の人

棄子と云へば幼年時代に兩親に遺棄せられた者を云ふのである故に廣い意味に於て親なし子である、さうして其遺棄せられた原因に付ては固より同一ではない或は私通關係から出來た子を棄つる場合もあれば或は家庭の事情の爲めに遺棄される場合もある、何れにするも兩親が其子を養育する力がない

ので已むを得ず棄たのである、故に此種の者も前項で説明した親なし子と異なる處はないが原因が異なつてゐるだけに結果も自然異なつてくる、即ち彼は兩親に死に別れたので兩親の罪でないが是にあつては兩親の不行義からかゝる原因を興へたのであるから其兩親の不行儀が其子に及す悪結果は純然たる親なし子より一層大なるものである、又事實に徴しても此種の者は一般に墮落して社會に惡毒惡魔を普及してゐる様だ子を持つた親たる者はかゝる場合を想像して須く注意しておかねばならぬ。

第四項 私生子の人

我法制では婚姻の要件を實質的要件と形式的要件とに別けて此二要件が充實しないときは正式の夫妻でない、従つて此二要件の一を缺欠して出來た子

を私生子と云ふて正式の婚姻より出来た嫡出子と區別してゐる、さうして私生子は母の子であつて父が之を認むる場合に於て庶子となり更に正式の婚姻を爲すときは嫡出子となるのである、斯の如く私生子を卑下するは可成私通關係より生ずる場合を矯正せんが爲めである、是即ち家族制を重んずる國にありては當然のことである、要するに私生子は法律上の理由のみならず社會から卑下されるのは親が不行儀の結果出来た子であるから親の遺傳を受けて墮落する者と看做してゐるからである、又事實に於ても親が其子の養育の方針を過つてゐる場合が往々あるのみならず又其子自身が自分私生子なりと自覺して成功を疑ひ墮落の淵に淪落する者が多いのである。

第五項 獨身の人

男女の區別なく獨身生活は餘り感心が出来ない點がある、さうして其獨身を守る理由に至つても固より同じではない或は我が儘から獨身を守る者もあれば或は目的の爲めに之を爲す者もあり或は戀愛の爲めに之を爲す者もあり或は家庭の事情の爲めに出づる者もあれば或は虚榮の結果獨身生活を餘儀なくされた者もあるが大體に於て結果は同一に歸するのである、惟ふに男女同化と云ふことは自然の要求する處であつて別に獨身を守るの理由も必要もない、さうして獨身者は淋しい自然に反する生活を持続してゐるので精神は疲労し因循固息は助長され殊に家庭の趣味なく孤獨の生活をしてゐるので神経は過敏になり忍耐に乏しくなるのが常である、特に女子の獨身は其必要がないのみならず之より生ずる弊害は尠なくない故に女子は須らく獨身生活

を排斥する必要がある。

第六項 繼子の人

兒童が物に感染し易いことは恰も傳染病が傳染する様なもので何事に係らず直ちに之を似ねると云ふのが兒童の本質である、況んや其家庭内に存する習慣や氣風は勿論のことである、さうして其兒童を餘り丁重にし過ぎたり又は虐待すると其反動で立派な人になれなくなる、尠なくとも虐待されて成長した者は充分な發育を妨げられるのみならず素質より變つた性格の者が出來るので注意せんければならん、世の中には繼子いぢめと云ふて非常に繼子を虐待する母がある其非道の母に據つて成長した者は稀には非常に成功する人があるが墮落する者が多い、其墮落した者は表面温和な様に見せて内面に惡

いことを考へてゐる之即ち習慣が斯の如くになさしめたのである。

第九節 家庭より觀たる人

第一項 總 說

兒童教育の大本は家庭の養育にあるのである、故に家庭に於ける養育の不適は兒童をして其素質を變化せしむるの原因となる、況んや其家庭に存する習慣や氣風は兒童をして直ちに之に感染せしむることは言を俟たない處である、要するに兒童は未だ思考が充分に發達してゐないので面白いことであれば善惡の區別なく直ちに之に感染するのが常である、例へば家庭が紊亂れてゐて惡習慣や惡氣風が流布されてゐるときは如何に學校教育が完全でも到

底其兒童をして完全ならしむることは出来ない、さうして其變つた家庭に於て成長した者は素質以上に變つた人になることは識者も争ない事實である故に吾人は其家庭の變つた場合を擧げて順次研究して見よう。 何

第二項 厳しい家庭の子女

可愛子に旅をさせと云ふことは要するに子の愛に引かされて丁重にしすぎるなど云ふことである、即ち餘り丁重にしすぎると我が儘が増長して親の慈悲のある命にも服することが出来なくなり遂には墮落する様になる、よし墮落しないとしても我が儘が増長するに従ひ意思が薄弱になつて活動するの勇氣がなくなるのが一般である、之に反し嚴格な家庭で養育された者は禮儀は正しくて忍耐力が養はれてゐるので社會に立つても活動は出来る即ち艱難辛

苦に相遇しても之を切抜けるだけの勇氣がある、さうして正理の觀念も養はれてゐるので比較的不正な行爲をする者が尠ない、就中婦女子の如きは嚴格な家庭で育てられた者でないといふと良妻賢母となれない様だ。

第三項 亂れた家庭の子女

家庭の紊亂は其子女をして墮落せしむるの原因であることは前項にて既に説明した處である、即ち世上に存する不良少年なる者の家庭を審査して見るに其紊亂と兒童に對する養育の方針を過つてゐないものはない、言を換へて云へば兒童の墮落は家庭の紊亂若くは養育の不當に歸因せないものはないのである、殊に家庭の紊亂は兒童をして其紊亂に感染せしめ第二の天性を殖へつけるの原因となり遂には墮落の淵に淪落せしむるのである、かゝる家庭

に養育された子女は常に快樂主義に支配されて忍耐は缺け人情に薄くなり遠大な理想の如きは毛頭ないのが常である、又女子にあつては多情は養成され我が儘は増長され虚榮心は高くなり將來圓滿な家庭を造ることは不可能となるのである。

第四項 富める家庭の子女

人は生れながらにして貧富の差異を生ずるのは前者が善行爲を爲したると爲さざりしとに因るのである、故に前者が私慾を抑制して獻身的行爲を爲した後に生れた者は富家の子女であつて此の義務を盡さずして私慾を盾に娛樂を爲した後に生れた者は概して貧家の子女である、斯の如く人は生れながらにして幸福なる者あり不幸なる者がある、然らば果して富家の子女は幸福なり

や否やと云ふに大體に於ては幸福ならんも絶對に幸福なるべしと云ふことは出来ない、惟ふに幸福の次ぎに不幸が來ると不幸の次ぎに幸福が來るとは其感を大に異にするものである、例へば旭日と夕日とは同じく斜めに光線を送れど益々昇らんとする場合と益々降らんとする場合とは大に其感じを異にするのである、之と同じく苦より樂に移る時は快感を生ずるも樂より苦に移るは苦感の最も甚だしいものである、さうして人は幸福のみ生ずるものに非らず必ずや一生涯に一度以上は不幸の生ずる場合がある、かゝる場合に當りて富家の子女は社會の事情に暗く而も社會の荒波に相遇してゐないので其苦感は貧者に比して最も大なるべし、以上は特別の場合であるが要するに富家の子女は所謂天真爛漫に育てられたのであるから社會の事情には暗くて比較

的我が儘であるが小事に就ては無頓着で概して淡泊な天真爛漫的な人が多い

第五項 貧しい家庭の子女

敵なくて己が幸福何處にか去ると云ふ格言があるが要するに貧しい家庭で育てられた者は外部より刺激されるので敵愾心を起して非常な成功をする人がある、言を換へて云へば貧しい家庭で生れて其家庭で育てられた者は富家の者から卑下されるので遂に奮闘する様になるのである、斯の如きは其美を爲したものであるが中には墮落し易いのを利用して意外の方面に進む者尠くない、さうして貧しい家庭では往々紊亂した家があるかゝる家庭の子女は前項で述べた結論になるのが普通である、又此の種の家庭では亂暴な氣風が流布してゐるので女子の如きも自然に亂暴で無作法になつてゐる者が多い況

んや教育を充分に授けないに於ては當然生ずる問題である、要するに貧しい家庭で生れて此の家庭で養育された者は一般に幼年時代から種々な艱難に遭遇して社會の荒波にうたれてゐるので忍耐はあるが兎角快樂主義が普及してゐるので動もすると墮落して終ふ者が多い、殊に此の種の人は金融が豊になると私慾の爲めに散るのが普通になつてゐる。

第六項 父獨身の子女

古歌に曰く「父は照る母は涙の雨となり同じめぐみに育つなでし子」是即ち母の情たる雨多ければ完全なでし子は出来ない又母の情たる雨がなければ成長を妨げられるのである、要するに太陽と雨とはなでし子の成長に缺くことの出来ない要素である、之と同じ理窟で人も亦父と母とに因つて育てら

れるので完全な發育を遂げるのである、然るに世の中では母なくて父のみによつて育てられて成長する者がある、かゝる者は恰もなでし子が雨なくて成長した様に健全ではあるが母の情の雨が乏しいので自然強情な物事に無頓着な至つて淡白な者が多い様だ、故に女子の如きは父獨身の者によつて育てられた者とするれば此の點に注意せなければならん況んや男子の手で育てられた者は禮儀作法の如きを理解し社交に就ての注意などは到底不可能であらう。

第七項 未亡人の子女

家庭に於て兒童發育の任にある人は母親である、さうして母親は情の雨となつて其兒童を養育するのであるから慈愛の多いことは云ふまでもない、故に母親のみによつて育てられた子女は恰も雨が多し中で育つたなでし子の様に

に完全な發達を期することが出来ないのが常である、故に未亡人の子女は其母の慈愛の多い中で養育されたのであるから我が儘で親の威嚴を知らない者が多い従つて我が儘が増長して遂には墮落する者が多い、殊に男子にあつては最も此の弊害が多い様である。

第十節 年齢より觀たる人

第一項 總 說

人此世に生れ父母の養育の爲め次第に成長し七八才に至りて學校に入り國民たるに必要な學理を究め十四五歳より身體上及精神上種々な變化を経て漸く成年に達し而して老年に至るのである、故に此間に於ける精神上の變

化則ち性質の變動は著しいものである、殊に幼年時代より成年時代に至らんとするときは其變化の最も甚だしいものである、或學者は人生の一代を四期に別つて各人の氣質を區別してゐる則ち幼年時代は多血性であつて成年時代に至ると膽汁性となり更に中年時代に至れば、氣鬱性となり尙壯年時代に至るときは粘液性となるものであると説明してゐる、大體に於ては然らんも吾人は全然此説に賛成することは出来ない故に吾人は吾人の信ずる處により各人の性格を左の三期に別つて研究して見るのである。

第二項 幼年期

人の精神作用は其身體の發育と共に著しく發達することは、前段説明した通りである、言を換へて云へば身體の發育に伴ひ外界の刺激や教育の力や種々

な境遇に因て知識はそなはり判斷心は増してくるのである、故に其性格に於ても種々な變化と共に變動を生じてくるのである、然れども幼年時代に於ては身體の發育する程性格には變動はないのである只だ知識が増し是非善惡の觀念が生ずると共に嗜好に就ての慾望は多く生じてくるのである、従つて性格の變化と云へば其慾望に對し幾分性格を異にする様になる位である、さうして幼年時代に於ては物に感染し易くて好奇心が強いので境遇に因つて甚だしく素質を變更せしむる場合がある、則ち世上に現れる不良少年と稱する者は蓋し此期に於て過つた者である、此の點に於て學者の多血性なりと云ふ説も過りではない。

第三項 少年期

身體上及精神上著しき變化を來す時代は十二三歳より十六七歳に至る間であることは上段説明した處である、謂ひ換ふれば此の期は身體の發育に伴ひ精神上則ち性格に顯著なる變化を生ずる時代である、殊に言語には音聲の變化あり味覺には嗜好の變化あり其他身體の構造殆ど一變する時期であるから従つて性質にも大變動を來す時である又物事に感染し易く醒め易く活潑であつて而も亂暴なときで忍耐に乏しいのが普通である、就中女子にあつては月經の生ずる時であるから身體に大變化を來すのである殊に少女が男子に接すると身體上は勿論精神上に甚だしい變化を起し精神が一變してくるので度胸は出來愛情は加はるのが普通であるが嗜好に就て變化を生ずるので虚榮心は高くなり理想が一變するので従つて性格にも多少の變動がある、又

此期に於て素質に變更を生じた場合には墮落するのが原則の様だ。

第四項 成年期

吾人は種々なる變化を経て成年期に至るのである、さうして成年期になると著しい變化はないが境遇に支配されて性質に變更を來すと終生矯正することが出來ない様になる、此の點から見るときは膽汁性なりと云ふも過りではない、寧ろ當を得てゐるかも知れん、要するに成年期にあつては概して熟慮の上でなければ事を爲さない方で落着がある、さうして慾望も確實な方面に進んでくるので少年期の様に空想論者は比較的少ない又年を増に從ひ忍耐心も出來てくるのが普通である、殊に精神上的の慾望よりは物質上の慾望と云ふ方面に進んでくるのが順序である。



人の心を知る法終

附録 人間の十二性質

天地陰陽の理に基き人間の性質を十二種類に大別し、衆人の各異なる心性を細説せんに、人は其境遇に依り又は宗教教育等の感化を享け其性癖は矯正さるゝを以て、判者は常に开を念頭に置き始終判断せねばならぬ。

第一 子年生れの人

知覚英敏にして義侠心に富むも、吝嗇にして性急燥なるは大に反省すべきである。貯蓄心の必要なるは言ふ迄も無けれど此年に生れたる人は極端なる蓄財家が多い、所謂一文惜しみの百知らず只々眼前の小利に迷つて私腹を肥す爲めの手段として何物をも顧みざる傾向あるは誠に惜しむべきであるが、

常に粗衣粗食に甘んじ、能く勤勞に堪え、業務の貴賤を問はず、實直にして貯蓄心深きを以て生活上には困難少なく又機を見るに敏捷で、眼先きは人より能く利く方である、孝道に厚く兄弟和輯なれば一家和合す、此性の人は性實直にして感動的能力發達せるが爲め憐愍の情發し往々他人の哀愁貧苦等に對しては、平素チク／＼蓄積せし財貨を擲つて之れを救濟せんとする義侠的行動に出づることあるは大に賞讃すべしとなすも、此類の人は一概に創業の才あるも成功の途中數多の業務に惑はされ有終の效果收め難しとす、性格は何れかと云へば急燥の人多い様である、又小膽の方で余計な事まで氣に惱やむ癖がある、乍併天性器用の方で細工物美術的の趣味もあるから、女ならば手工物、生花、編物、染物、裁縫等上達する、又音藝趣味もある、男子は商

工業、技術、慈善事業、宗教家に適する、又神佛を崇拜するも人に依頼心少くなく主我の觀念強いたため時として損することがある、福祿は備はる方なれば時期至らば立身出世する運勢を有する。

第二 丑年生れの人

此歳に生を享けたる人は不思議と思ふ程忍耐力發達し、意志強固ではあるが、頑固で偏屈家が多い。事に臨んで理非曲直を辨へずして己れの言分を徹頭徹尾貫かんとする性癖で、他人の忠良なる諫言も更に耳にも聞き入れず、倨傲尊大以て人を高壓せんとし舊事を固守して新事を顧みず、飽迄自分の主義に拘泥する結果事業發展せず立身爲めに人後に遅れ、折々傲慢と罵られ他人の感情を損ふことが多い。又訥辨にして性野村なるを以て大正式の人には

多く歓迎せられず、社交には拙づい方である。亦人の心を讀むと云ふ様な觀察的能力乏しく人の世話や奔走する事、細かな入込んだ相談、考案的の事などは多く好まざる方で、大食、晝寝、悠然逸居、角力、獨立的事業等を好むも、固意地なるを以て人に利せらるゝ事あるを以て注意すべし、而し此種の人の特長は根氣の強い事、容易に人に盲従せぬ所が價値である、結局忍耐心強き爲め學事又は専門の技術、航海業、軍人等に於ては有終の效を收むべく千挫屈せず専心努力奮闘の念堅き爲め事業卒に成功すべしとするも、機敏性を加味する人は成功割合早かるべし。

第三 寅年生れの人

性質勇猛にして熱烈し第二種とは正反對なり、第二は不器用の方なれ共此

方は頗る聰明にして機智に富む方である、乍併膽小にして反省後悔するも剛勇を装ふ、自尊心強く大志大望を抱く、智識發達せる者は蓋し立身成功の日ありとす。只一舉にして巨萬の富を攫み廟堂の高きに位ひせんとする空想に近き思念を去り、競争的野心も常に境遇に鑑みて過度の弊に陥らぬ様心懸け、慢心を自制して人の感情を傷けぬ様且つ性急卒なる所あれば大に注意戒心する所あれば徳望其身に聚まり事業も衆人の援助を得て自然其目的も貫徹せられる、何事も創業の聲大なる割合に後には火の消えた様不首尾に終はること多きは慨嘆せざるを得ないが此種の人は智力は大に發達せるを以て善用せば旭日東天の勢ひを以て諸事成功すべし、又丑年生れの人に比しては忍耐心に乏しき所なしとせざれば辛抱力養成も此種の人に取つては最も必要の

事柄である。儉約の念あるも財を費やすこと多い、獨立事業及び軍人又は文藝學術、保險、株屋方面には適當なるも商業、工業、農業、航海業には不向きの方である、運勢は官祿共に備はる上々吉の方であるが勝負事が好であるだけ事業には榮枯盛衰はあるが、運勢は強きを以て男子には此年に生るゝを悦ぶ。

第四 卯年生れの人

此性の人は内心平和にして福德あり、能く人と和合し人に愛せらるゝが故に交際は圓滑の方である。然し性悠長なるが爲め決斷力に乏しへ萬事手控の質なれば漁夫の利を占めらるゝことがある、又不正の徒に悪用せられ易い傾向があるから注意が第一、酒色に耽溺し易いから謹慎すること、此種の人

幸運にして性格より論ずれば富貴の人たらずんば正に高德の士とも謂ふべきである、されば一概に權謀術數の人でなければ亂麻截斷的の手腕家でなく平和の裡に自然的勝利を獲得する人と見るべきか、何は扱て此性の人は喧嘩、活動すること、熟慮すること、綿密のこと、御世辭、投機のこと、武張つたこと、韓旋することなどは嫌いで、無聊、閑居、芝居、慈善、美衣美食、音楽、美術、文學、などは好きの方、職業としては商業などより寧ろ技術方面が得意である。

第五 辰年生れの人

第三の性質に似て猛勇なるも熱烈しき爲め遣り過ぎることがある、財貨聚散常なく變動甚敷方なれば大に自製心を養成し一攫萬金、高飛榮進の事

柄は避け自重奮闘せば其勇氣と知識の光明は臆て富貴の班に輝く季節がある然し比較的些事に人と口論し剛情以て人を制せんとする性癖あるを以て人と和睦を破る恐あるは慎しむべきである、一概に此種の人は賢明にして智慮深く器用の質なれば、假令運勢は浮沈興廢あるべしとするも、己れの通弊を去り注意周到機を見て進むの覺悟あれば最終の勝利は期して疑はず、亦同情心に富み誠實以て人の爲めに努力を惜しまざるは大に賞揚の價値がある、而して粗雑を忌み、物事を忽緒にすること、人の指圖を受くること、守成的のこと、後悔すること、などは嫌いで、發明的のこと、武技のこと、勝負ごと、危険のこと、勇ましきこと、などが好きである、職業は政治、實業、技術、音藝、軍人などであるが、此性の人は投機的事業に着手し思はぬ失敗を招く

ことあるも、所謂蛟龍池中の者に非らずで又長上の同情知友の後援に依りて再び社會に活躍の時機到來し福運掌握の日がある、此種の人は要するに上流の人には強運なるも下等社會の人間には餘り歡迎されざる年廻りである。

第六 巳年生れの人

此性に生れたる人は多く心平靜にして沈毅寛裕の君子肌なるも、而も執念深く格氣の心多きは大に猛省覺醒すべきである。色慾の情他性に比し發達し、又人を妬み疑ふ心多きも教育ある者は精神一變し同情仁愛、徳義心發達し稀には模範的人物がある、又極めて細事に煩悶し人の爲めに苦勞することが多い、何事も高尚なこと、人の世話、衣食の立派なこと、貯蓄のこと、閑居、芝居、などが好きで、殺戮のこと、他人の成功、他人の美衣、社交、饒舌、

騷擾的のこと相撲、擊劍、射擊、戰爭などは嫌ひの方である。性質は才能あり勉強心に富み而して容貌端麗丈に品位ありて評判さるゝ方なるも、内心縮りありて容易に他人の言に惑はされず、毅然として犯すべからざるは實に心外の感に打たれざるを得ない、運勢は悪しき方ではない、即ち執着心強きが第一の特長で搗て、耐忍努力の結果事業は後ちに奏效し赫々たる高名を博する時節がある、職業としては教育、美術的のこと、文藝的のこと、農業、商業とすれば骨董、造花、藥屋、内外雜貨、洋服裁縫、自動車業、結婚葬祭業、茶舗、紙屋、時計店、書店の如きを撰定する方が宜しからう。世の美人は多く此系統に屬するは注意すべきことである。

第七 午年生れの人

此性に生を享けたる人は、極めて陽氣のことを好み、華奢豪遊を樂しむとし、能く人と談じ能く和し、交際は圓滿の方である、肝膽相照以て人に接し事を議するを以て自然衆人の愛を得て遂に大事業を經營することが出来る、多く大望を抱き霸氣に富み、奔馬天を衝くの勢を馳りて活動せるが故に其人の業務は歴々成功して行く。身體は巨大にして酒豪家が多い、又美食を好む性癖あれば財産を失はぬ心掛けが肝要である、智力尠なく僅かの事に驚き騒ぐ性質の人多ければ膽力練磨も必要である、事業は成るべく他人と共同に行る様にして獨立的のことは避くる方得策である。忍耐力も乏しき方なれば祕密に渉る事柄は一倍注意せざれば遂に禍其身に及び己れの事業に大影響を來す恐れがある。結局輕薄に流れ易きを以て自重自尊克己堅忍の修養を勉む

べきである、又熱し易く醒め易き素質をも包含せるが故に人の愛憎急變し易し、又多言も禁物、運勢は過半中位に伍し、好みの事は遊興、飲食、華奢、般賑、諧謔、談話、旅行、多忙のこと等にして嫌なものは貯蓄、熟考すること、嚴格のこと、閑居、祕密的の相談、地味な仕事、などである、兎まれ餘り感服出来ざる缺陷多き性格なるも又他人の急を救ひ或は斡旋し能く人に物を恵む美德は特筆するに足る。職業は音楽技藝、請負的の事業、株米の取引業、貿易業、出版印刷、開拓事業などであらう。

第八 羊年生れの人

性温順にして奇才豊富、緻密にして研究的の考案的事柄を好み仁義救済の念深く、忠信孝養の志厚く眞に推賞すべき性格を有するも、小心の徒多く

一事一物に對し深く考へ過す傾向ありてクダラヌ心配をする癖がある、其れで何事も果斷を缺き損することが多いのは深く省慮せなければならぬ、性柔和なれば人の感情を害じ不和を醸す様のは至つて少ないけれども、必要の場合に臨んでも萬事控目勝なれば思ふ事を押し切つて發言し得ず爲めに人に利せられ又は乗せられ後ちに大に後悔煩悶するのは此種の人の通有性と云つても宜敷位である、人物としては頗る上出来の方なるも望むらくは此性の人はミナ勇氣を養ふことを勉めて貰ひたい、運勢は富貴榮達の方ではあるがこは一に勇氣の有無問題で決定せられるのである。好き事は學術のこと、研究工夫すること、音曲、仁慈、清潔、誠實、正直、風流韻事、宗教哲學など、嫌なものは荒々しいこと、議論がましいこと、冷淡なこと、殺生、胃

險的のこと、繁劇のことである、職業は學者、宗教家、技術家、銀行業、美術音藝、官吏、勤人等であらう。

第九 申年生れの人

博愛仁徳の念厚く大膽にして智慮深しと雖も中には奸曲を弄し嘲弄的瞞言を吐きて他人の利益を吸収し残忍暴戾の舉動を敢行して迫害を與ふる不都合極まる輩あるは遺憾千萬である、此性の人は善性が悪性が畢竟極端と極端の行動に出で易い、善性の側なれば萬人の長ともなり高名赫灼衆望を繋ぐ有爲の人物となる運勢を有するも若し之れが反對の性格なれば惡徳又は殺伐的の行動に出で到底濟度し難き人物である、乃ち此性の人は出世するものが多い割に困難、貧乏、病苦等の弊害に惱まされる人も多い、好きなことは仲立、

周旋、淫事、秘密のこと、器用なこと輕薄のこと、華美なこと、物の消費、謔談ごと、大きい話、施與的のことなどで、嫌なことは、勤儉、卒直、公平、獸類、粗衣粗食、神佛崇拜などである、職業は掛け引き多き仕事、商業としては投機的方面、軍人、船員、飛行家、海事的事業、鑛山業、金貸業などであらう。

第十 酉年生れの人

才智人にすぐれ技倆又卓絶して、志望抱負遠大と云ふべき性を享けたるも、勇氣に乏しく安逸を貪り、遊惰驕奢に耽り易きは短所とも云ふべきか、然し交際は圓滿にして學術技藝に秀で又は奇智謀計に妙腕を有するを以て中には傑出せる人物を認める。此性の人には猶勇氣と膽力、果斷に忍耐を要望せ

ざるを得ない、又酒色を戒しむる必要がある、創業の才ありて何事も覺醒的
觀念旺盛と云ふべきであるから、事業は勇氣あり斷行力あれば素破らしき成
功を收め名譽を博するが、之は一に此れを持続する執着、心努力の強弱に依
り定まるのであるから唾手一番大に健闘せんことを切望する次第である、好
きなものは計略ごと、先鞭を着けること、懇切なること、頓智のこと、特許
考案のこと、人を指導教養することなどで、嫌なことは、冒險のこと、
戦争のこと、無分別のことなどで、職業は、文藝學術、教育家、閑散的な
商業、農業、質屋、貸屋業、官吏などであらう。

第十一 戊年生れの人

性質直にして何事も大事を取り極めて用意周到で義侠心に富み義理堅く、

禮儀を重んじ温厚忠良の素質を有し、長上の引立を受け立身出世するも、頭
領格の器でなく、疑ひ深く又人を妬み吝嗇の性癖あつて金錢上の事にて人と
和親を破り悪評を招き易い傾むきがあるから此惡癖を矯め豪放磊落、清濁併
せ呑む大雅量の人たらんことに練心怠らず、消極的觀念打破に努め、頑固の
性を去り萬事開放主義國滿主義で働けば福祿を得て名譽の人たるべきか、智
才あるも小器なれば結局は大名譽たり難きも萬事打算的ならば生活は富裕の
方で衣食には窮することは尠ない、運勢は平均して中位である、此人の特性
は人の爲めに盡すこと、義理堅く眞面目のこと、技藝のこと、忠臣義士談、
確實のこと、蓄財、美食を好み、粗漫、喧騒、無頓着、人に謝まること、
諫言、逸まること、人の指揮、靜居、陰氣なこと、物を徒費すること、策略

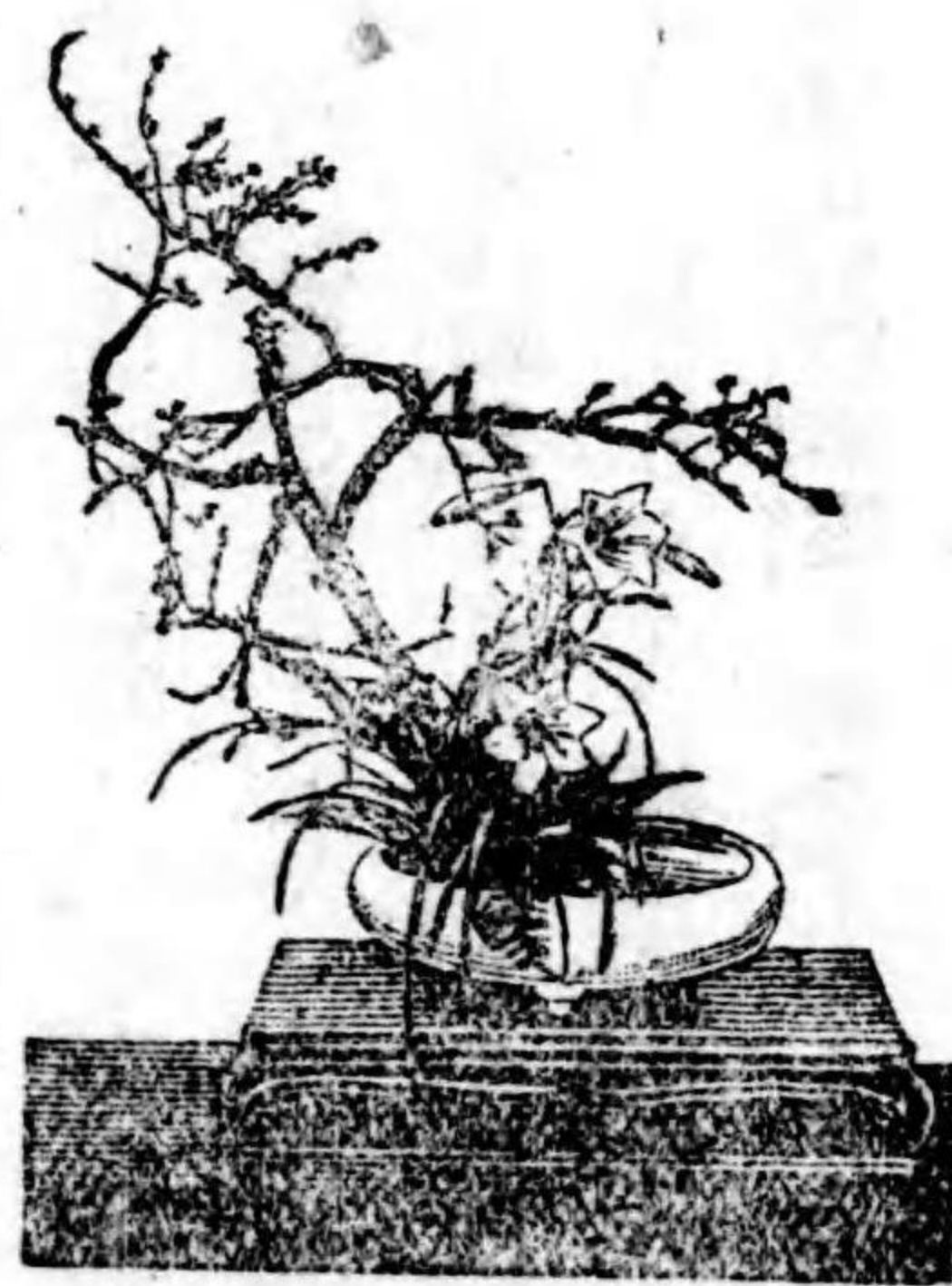
的のことなどは嫌ひである、職業は教育家、銀行業、官吏、勤人、信託業、
金貸業、保険業、商業などであらう。

第十 亥年生れの人

性猪の如く事に臨んで勇往邁進し前後を考慮せず何事も一瀉千里的に我
志望を遂行せんとする氣象なれば、往々にして事業蹉躓し致命的損失を來す
悞れもある、剛情にして肝癆強く容易に人言に服せず非を理としても飽迄我
意を貫徹せすんば止まぬ氣風があつて、人の下風に立つを潔よしとせざるを
以て交際向き面白からず常に怒り易くして不平勝である、財貨を能く集むる
とも散じ易き性格であるから、何事も大事を取り、成年生れの人如き注意
周到が肝要である、熟慮斷行は眞に此性の人には是非註文したい、以上の短所

を變改して、克己、熟考、社交圓滑の人となりたらんには蓋し富貴の人とな
ること決して難事ではない、此性の人一般に淡泊のこと、冒險のこと、
投機的のこと、無理なこと、勝負事、猪突的のこと、戦争、體育的運動、競
争的のことを好み、熟考すること、閑居、人に教を仰ぐこと、人の依頼事、
などは嫌ひの性質である。職業としては軍人、航海業、保険業、製造工業、
請負、鑛山業、株屋、出版印刷業などで商賣とすれば旅館、料理屋、活動寫
眞業、運搬業、興行ものなどであらう、總べて此性的人是成るべく共同的經
營を避け重に獨立自營的方面の事業を撰擇することが宜しい。

録附 人間の十二性質 (終)



大正八年五月十二日印刷
大正八年五月十五日發行

不許複製

著者

白龍山人

(正價六拾錢)

發行者

山下榮一

東京市神田區三河町一丁目十四番地

印刷者

太田泰助

東京市麹町區平河町一丁目

發行所

新興社

(振替東京三三六五四番)

丸利印刷所印刷

117
898

◇致富研究會編

最新 確實 金儲案內

特價七拾錢
送料六錢

最近に於ける
二圓から千
圓以下の出
る金儲の秘書

現在の職業に満足せず他に有利の職を求めんとする人、無資本の爲め有利の職を見出し得ざる人、小資本で最も利益の多い事業を選まんとする人も早く本書の餘暇で副業的内職的に金を儲けんとする人々は一日も早く本書を一讀あれ。

◇時代研究會編

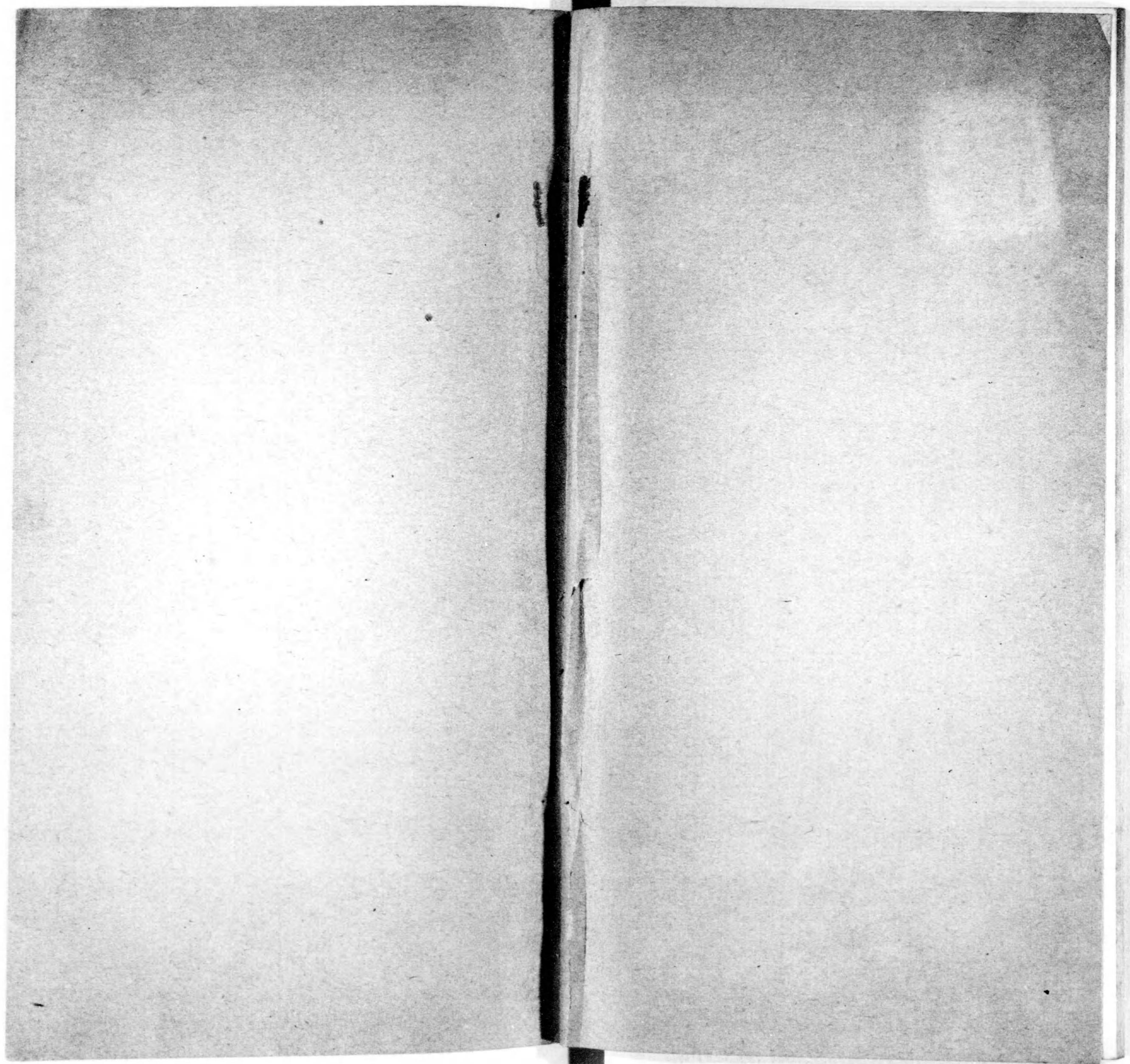
現代新語辭典

特價八拾錢
送料六錢

讀書に作文に
座談に演說に
便利に重寶に
活きた字引

毎日の新聞雜誌などに盛に使はれてゐて、其意味のハッキリせぬ例へば敵本主義、熟柿主義、時代錯誤、幻滅、端的、洋服細民、ヌーボ、銀行、デモクラシー、ジゴマ、デカタン、サイノシ、一六、銀、銀ぶら、成金等數千の新しい言葉を網羅して其意味と出所を明かにしたるもの。

發賣 東京 市 麴町 平河 一丁目 新 興 社
振替 東京 三三六 番 四



終

